

シ」ヲ削ル

第十一條第一項乃至第三項ヲ左ノ如ク改ム
地方農業會ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フコトヲ得

一 農業ノ指導獎勵及統制其ノ他

農業ノ整備發達ニ關スル施設

二 會員ノ販賣スル物ノ賣却又ハ其ノ加工ニ關スル施設

三 會員ニ必要ナル物ノ購買又ハ其ノ加工若ハ生產ニ關スル施設

四 會員ニ必要ナル資金ノ貸付又ハ會員ノ賄金ノ受入ニ關スル施設

五 會員ニ必要ナル設備ノ利用ニ關スル施設

六 農業ニ關スル調查及研究

七 農業ニ從事スル者ノ福利增進ニ關スル施設

八 前各號ノ事業ニ附帶スル事業

第十五條第一項但書ヲ左ノ如ク改ム
但シ其ノ者ガ法人ナルトキハ命令ヲ以テ定ムルモノニ限ル

同條第二項中「行政官廳ノ認可ヲ受ケ」ヲ削ル

第二十一條第二項中「及第二號」ヲ削除

第二十二條及第二十三條 削除

第二十五條中「會長」ヲ「理事」ニ改ム
第二十七條 地方農業會ニ理事及監事ヲ置ク

第二十八條 市町村農業會ノ理事ハ命令ノ定ムル所ニ依リ會員ノ中ヨリ會員之ヲ選舉ス

市町村農業會ノ理事特別ノ必要アリ認ムルトキハ會則ノ定ムル所ニ依リ前項ノ規定ニ依ル理事ノ外一人ヲ限リ總會ノ承認ヲ得テ理事ヲ選任スルコトヲ得
第二十五條ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ准用ス
市町村農業會ノ監事ハ總會ニ於テ之ヲ選任ス
道府縣農業會ノ理事及監事ハ總會ニ於テ之ヲ選任ス
第二十九條 理事ノ任期ハ三年トシ
監事ノ任期ハ二年トス但シ會則ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得
前條第三項ノ場合ニ於テ理事ノ選任ニ付總會ノ承認ヲ得ザルトキハ當該理事ハ其ノ職ヲ失フ
監事ハ任期中ト雖モ總會ニ於テ之ヲ解任スルコトヲ得道府縣農業會ノ理事ニ付亦同ジ
第三十條 民法第五十二條第二項、第五十三條乃至第五十五條及第五十九條ノ規定ハ理事及監事ニ付之トス
第五十條 全國農業會ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フコトヲ得
一 農業ノ指導獎勵及統制其ノ他
二 會員ノ販賣スル物ノ賣却又ハ其ノ加工ニ關スル施設

第三十一條第二項中「第十一條第一項第一號、第二號及同條第二項第三號、第四號ノ事業竝ニ此等ノ事業ニ關係アル範圍内ニ於ケル第七號ノ事業トス」ヲ准用ス
第五十八條乃至第六十六條 削除
第六十七條第一項中「地方農業會ノ會長、副會長、理事若ハ監事、全國農業經濟會ノ理事長、理事若ハ監事又ハ第四十五條（第五十七條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ規定ニ依ル」ヲ定ム
第二條 本法施行ノ際現ニ存スル全國農業會令ニ依ル全國農業會ハ之ヲ本法ニ依リ設立シタルモノト看做ス
第三條 第二十八條第一項又ハ第五項（第五十七條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ改正規定ニ依ル最初ノ理事ノ選舉又ハ選任ハ命令ヲ以テ定ムル期間内ニ之ヲ爲スペシ
本法施行ノ際現ニ地方農業會又ハ全國農業會令ニ依ル全國農業會會長、副會長又ハ理事タリ者ハ各之ヲ前項ニ掲グル改正規定ニ依リ選舉又ハ選任セラレタル理事ト看做ス

第五十七條 第十六條乃至第十九條、第二十條第一項、第二項本文、第二十一條、第二十四條、第二十五條、第二十七條、第二十八條第五項、第二十九條第一項、第三項、第三十條乃至第三十三條、第三十五條、第三十六條第一項本文、第二項第三十七條、第三十九條、第四十條、第四十一條 削除
第四十五條中「會長」ヲ「理事」ニ改ム
第四十六條 削除
第四十七條中「會長、副會長」ヲ削リ「決議ヲ取消シ」ノ下ニ「理事若ハ監事」改ム
第四十九條 全國農業會ハ農業ノ整備發達ヲ圖リ且會員ノ事業ノ發達ニ必要ナル事業ヲ行フコトヲ
第五十条 全國農業會ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フコトヲ得
一 農業ノ指導獎勵及統制其ノ他
二 會員ノ販賣スル物ノ賣却又ハ其ノ加工ニ關斯ル施設

第三十一條第二項中「第十一條第一項第一號、第二號及同條第二項第三號、第四號ノ事業竝ニ此等ノ事業ニ關係アル範圍内ニ於ケル同項第五號、第六號及第七號ノ事業竝ニ此等ノ事業ニ關係アル範圍内ニ於ケル同項第八號ノ事業トアルハ第五十條第一號、第五號及第六號ノ事業竝ニ此等ノ事業ニ關係アル範圍内ニ於ケル第七號ノ事業トス」ヲ准用ス
第五十八條乃至第六十六條 削除
第六十七條第一項中「地方農業會ノ會長、副會長、理事若ハ監事、全國農業經濟會ノ理事長、理事若ハ監事又ハ第四十五條（第五十七條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ規定ニ依ル」ヲ定ム
第二條 本法施行ノ際現ニ存スル全國農業會令ニ依ル全國農業會ハ之ヲ本法ニ依リ設立シタルモノト看做ス
第三條 第二十八條第一項又ハ第五項（第五十七條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ改正規定ニ依ル最初ノ理事ノ選舉又ハ選任ハ命令ヲ以テ定ムル期間内ニ之ヲ爲スペシ
本法施行ノ際現ニ地方農業會又ハ全國農業會令ニ依ル全國農業會會長、副會長又ハ理事タリ者ハ各之ヲ前項ニ掲グル改正規定ニ依リ選舉又ハ選任セラレタル理事ト看做ス

ハ水産業トシ第十七條及第二十條
中第十五條トアルハ第五十七條ト
シ第三十三條第二項中第十二條第
一項第一號乃至第五號、事業及此
等ノ事業ニ關係アル範圍内ニ於ケ
ル同項第八號ノ事業トアルハ第五
十五條第一項第一號乃至第二號ノ
事業及此等ノ事業ニ關係アル範圍
内ニ於ケル同項第六號ノ事業トシ
第三十八條第一項及第三十九條中
出資漁業會トアルハ道府縣出資水
產業會トシ第四十條中漁業ノ統制
トアルハ水產業ノ統制トス
第六十一條中「水產業ニ關スル國策
ニ即應シ」ヲ削ル
第六十二條 中央水產業會ハ其ノ目
的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フコト
ヲ得
一 水產業ノ指導獎勵及統制其ノ
他水產業ノ整備發達ニ關スル施
設
二 水產物生產ノ確保強化ニ關ス
ル施設
三 水產業從事スル者ノ福利增
進ニ關スル施設
四 會員ノ販賣スル物ノ加工、保
藏、運搬又ハ販賣ニ關スル施設
五 會員ニ必要ナル物ノ供給ニ關
スル施設
六 前各號ノ事業ニ附帶スル事業
第六十五條及第六十六條 削除
第六十七條 第十二條第二項、第十
六條、第十七條、第十九條乃至第

第二十三條、第二十六條乃至第三十
五條、第三十七條乃至第四十一
條、第四十三條乃至第四十五條、
第四十七條及第四十八條ノ規定ハ
中央水産業會ニ付之ヲ準用ス但シ
第十六條第號中會員ノ漁業トア
ルハ水産業トシ第十七條及第二十
條中第十五條トアルハ第六十四條
トシ第三十三條第二項中第十二條
第一項第一號乃至第五號ノ事業及
此等ノ事業ニ關係アル範圍内ニ於
ケル同項第八號ノ事業トアルハ第
六十二條第一號乃至第三號ノ事業
及此等ノ事業ニ關係アル範圍内ニ
於ケル第六號ノ事業トシ第四十條
中漁業ノ統制トアルハ水産業ノ統
制トス

定ムル期間内ニ之ヲ爲スベシ
本法施行ノ際現ニ水産業團體ノ會長、副會長又ハ理事タル者ハ各之ヲ前項ニ掲グル改正規定ニ依リ選任セラレタル理事ト看做ス
前項ニ規定スル者ハ第一項ニ掲グル改正規定ニ依リ選任セラレタル當該水產業團體ノ理事就任シタルトキ（第一項ノ期間内ニ其ノ就任ナキトキハ同項ノ期間満了シタルトキ）ハ其ノ職ヲ失フ
第三條 本法施行前ニ爲シタル行為ニ關スル罰則ノ適用ニ付テハ本法施行後ト雖モ仍從前ノ例ニ依ル
第四條 前二條ニ規定スルモノノ外本法施行ノ際必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
〔國務大臣松村謙三君登壇〕
○國務大臣（松村謙三君）只今議題トナリマシタ農業團體法中改正法律案及び水產業團體法中改正法律案ノ提案理由ヲ御説明申上ゲマス
先づ農業團體法中改正法律案ニ付テ申上ゲマズ、本法律案ハ時局ノ要請ニ鑑ミマシテ、農業團體ノ民主主義化ヲ圖リ、系統農業團體ノ活潑ナル自主的活動ヲ促進致シ、以テ農業者ノ利益増進ト、國民食糧ノ確保ニ遺憾ナカラシムルコトヲ目的ト致スモノデザイマス、御承知ノ通リ現行農業團體法ハ、マシテ、其ノ機構ヲ全農業者ヲ打ツテ從來農村ニ於ケル諸團體分立ノ弊ニ鑑ミ、是ガ統合ニ關スル輿論ニ即應致シ

一丸トシタ單一且ツ総合性アル機構ニ再編致ス目的ヲ以テ、昭和十八年制定セラレタルモノニアリマスガ、此ノ法律ニ依ツテ農會、產業組合、畜産組合、養蠶業組合、茶業組合、各系統團體ハ、新タニ一元的ナ系統農業會ノ組織ニ統合整備セラレ、爾來今日ニ及ゾダノデゴザイマス、併シナガラ當時國民經濟ノ戰時的編成替ニ於テ、一般的ニ採用セラレタ方法ニ則リマシテ、其機關的ノ性格ヲ附與シ、其ノ事業運營ニ關シテモ多分ニ官廳的ノ色彩が濃厚ニナツタノデゴザイマシテ、是ガ爲ニ農業團體ハ漸次其ノ本來ノ自主性ヲ喪失シ、動モスレバ會員タル農民ヨリ遊離シ、却テ其ノ活動ニ困難ヲ來スト云フ狀態ヲサヘ招来スルニ至ツタノデゴザイマス、仍テ終戰後ノ事態ニ即應致シマシテ、從來最モ官廳的色彩ノ濃厚デアリマシタ農業團體ノ役員制度、役員ノ選任方法、又之ニ對スル行政官廳ノ監督制度等ニ付テハ根本的検討ヲ加へ、其ノ結果從來行政官廳ノ任命又ハ會員ノ公選主義ニ改ムルコト、會長中認可ニ懸ツテ居ミシタ役員ノ選任ヲ共ニ農民ノ爲ノ團體ト致シマシテ、其心ノ業務運營方法ヲ改ムルコト、及ビ團體ニ對スル煩瑣ナル行政官廳權限ノ縮減乃至廢止等ヲ行ヒ、以テ眞ニ名實共ニ農民ノ爲ノ團體ト致シマシテ、其ノ自主的ナル活動ヲ容易ナラシメ、農業ノ自治的整備發達ト、農業者ノ利益増進ニ寄與セシメタイト存ズル次第デ

次ニ水産業團體法中改正法律案ニ付
テ申上ゲマス、本法律案ハ只今申上ゲ
マシタ農業團體法中改正法律案ト全ク
同様ノ趣旨ヲ以テ、現行法ニ改正ヲ加
ヘントスルモノデアリマシテ、改正ノ
内容ニ付キマシテハ、水産業團體特殊
ノ事情ニ基クニ、三ノ細カイ點ヲ除
キ、大體農業團體法中改正法律案ト殆
ド同様デゴザイマスノデ、詳細ハ省略
サシテ戴キタイト存ジマス

以上ガ是等兩法律案ノ提案理由ノ概
要デゴザイマスガ、固ヨリ現下當面ノ
困難ナル食糧事情ヲ打解致ス爲ニハ、
眞ニ農業團體、水産業團體ノ活潑ナル
活動ニ俟タネバナラヌ所、極メテ大ナ
ルモノガアルコトハ申スマデモナイコ
トデゴザイマシテ、是ガ爲メ、政府ト
致シマシテモ今回ニ改正ヲ機トシテ、
更始一新以テ今後ニ於ケル農業團體及
ビ水產業團體ノ積極的ナル活動ヲ深ク
期待致シテ居ル次第デゴザイマス、何
卒御審議ノ上速カニ御協賛アランコト
ヲ御願ヒ致シマス(拍手)

○議長(島田俊雄君) 質疑ノ通告ガア
リマス、順次之ヲ許シマス——加藤知
正君

〔加藤知正君登壇〕

○加藤知正君 私ハ只今上程ニナリマ
シタ農業團體法中改正法律案ニ付キマ
シテ數項ノ質問ヲ致シタイト存ズル次
第デアリマス

ハ一昨十八年ノ春ノ議會ノ時デアリマシテ、都道府縣や各市町村ノ農業會ノシテ、成立ヲ見マシタノハ、一昨秋ヨリ昨春マデノコトデアリマシタカラ、マダ農業會ノ全機能ヲ發揮スル所マデニハ行ツテ居ラナイノデアリマシテ、是カラ漸ク其ノ能力ヲ發揮シテ行カウト云、時ニ於テ、早クモ之ヲ改正セネバナラヌト云フ理由ガ何處ニアルデアリマセウカ、只今農林大臣ハ改正案提出ノ理由ヲ御述べニハ相成リマシタケレドモ、マダ其ノ他ニ根本的ニ之ヲ練リ直サナケレバナラナイ點ガ多々残ツテ居ルノデゴザイマス、斯様ナ重要法案ヲ議會ニ提案セズシテ、總選舉後ノ特別會議會ニ提案セラレテ、慎重審議ヲ盡サシメ、全ク時代ニ即應シタル立派ナ法律ト致シ、本法ノ最大目的トスル食糧ノ生産確保ニ、全農業者ノ總力ヲ集結ナシメ、其ノ活動ノ最高效率ヲ發揮セシムヤウニセラル、コトガ妥當デハナイカト考ヘルノデゴザイマスガ、尙ホ此ノ點ニ付キマシテ、農林大臣ノ御所見ノ存スル所ヲ承ツテ置キタイト思フノデゴザイマス

策ト恒久對策ノ二ツアルコトモ亦爭フ
外ニ方法ナキコトハ、又多言ヲ要セザ
ル所デアリマシテ、政府ハ「マッカ
サ一」軍司令部ニ對シ、外米其ノ他会
セテ三百萬「トン」ノ輸入ヲ要請セラ
レ、其ノ輸入ノ承認ハ得ラレタガ、マ
ダ其ノ數量ノ承認ハ得ラレナイト云フ
コトデアリマス、併シ其ノ輸入ノ承認
ダケデハ、我々國民ハ未ダ以テ安心ス
ルコトガ出來ナイノデアリマスカラ、
一日モ早ク現物輸入ノ進展スルヤウ、
政府當局ニ對シテ此ノ上トモ一段ノ御
努力ヲ要望シテ已マザル次第デアリマ
ス、併シナガラ私ハ此ノ際此ノ外米及
ビ其ノ他ノ穀類ノ輸入數量ニ對シテ、
一點ノ疑義ヲ質シテ置キタイト思フノ
デアリマス、ソコデ政府ハ此ノ三百萬
「トン」ノ輸入ガ出來レバ、目前ニ迫ル
食糧難ノ危機ハ突破シ得ルカノヤウニ
考ヘテ居ラレヤウデアリマスガ、私
ハ之ヲ大ナル疑問トスルノデアリマ
ス、何トナレバ、私ノ計算スル所ニ依
レバ、此ノ三百萬「トン」ノ倍額、即チ六
百萬「トン」ノ食糧ガ確保サル、ニアラ
ザレバ、到底安心スルコトガ出來ナイ
ト思ヒマス、今我々ノ主要食糧デアル
米ニ付テ申上ゲマスレバ、我々日本人
ハ老若男女、病人、赤ン坊モ皆平均シテ
一箇年ニ二石一斗ノ米ヲ要スルノデア
リマス、是ハ以前内務省ニ於て累年ニ

瓦リ調査セラレタル結果ノ數量デアリ
マスカラ、私ハ之ヲ確實ナルモノ見
テ居ルノデアリマス、此ノ一人平均一
石一斗ノ數量ヲ基調トシテ計算シマス
ルト、我ガ國ノ人口七千二百萬ニ對シ
テハ一箇年七千九百萬石、即チ約八千
萬石ノ米ヲ要スルコトニナルノデアリ
マス、然ルニ近年ニ於ケル我ガ國ノ米
ノ生産高ハ、昭和十八年度ガ六千三百
萬石、昭和十九年度ガ五千六百萬石、
而シテ昭和二十年度即チ本年度ノ生産
推定額ハ、四千三百萬石ト云フコトニ
ナツテ居リマスカラ、我々ノ所要數量
額ト差引計算シマスレバ、昭和十九年度ニ
ハ二千四百萬石ノ不足トナリ、昭和二十
年度ニハ一千七百萬石、昭和十八年度ニ
トナルノデアリマス、ソコテ聯合軍司令
部ノ「クレーマー」大佐ハ、日本ノ現狀
ハ三千五百萬石、之ヲ「トン」數ニ直シ
テ五百八十萬「トン」約六百萬「トン」、
ニ近イ大量ノ米ガ足リナイト、新聞紙
上ニ之ヲ發表セラレテ居ルノデアリマ
ス、之ニ對シテ我ガ政府ハ如何ナル計
算デ三百萬「トン」ノ要求ヲセラレタノ
デアルカ、「クレーマー」大佐ガ五百八
十三萬「トン」不足スルト申サレルノニ
對シ、我ガ政府ノ要求三百萬「トン」ヲ
差引ケバ、殘リ二百八十三萬「トン」即
チ一千七百萬石ノ不足トナルノデアル
ガ、此ノ巨額ノ米ノ不足額ハ、如何ナ
ル食糧ヲ以テ補充セントセラル、ノデ
アリマスカ、之ヲ松村農相ヨリ詳細ニ

承リタトイト思フノデアリマス、幸ヒニ
私ノ誤算デアレバ此ノ上ナキ仕合セト
存ズルノデアリマス、此ノ點ニ付テ十
分御説明ヲ戴キタイノデアリマス
第三ニ承リタイノハ補充食糧デアリ
マス、松村農相ハ此ノ間此ノ壇上ニ於
テ、補充食糧トシテ一千萬石ノ國庫ノ
用意ノアルコトヲ申サレマシタガ、如何
ニ國庫ガ用意サレテモ、所謂國庫ノ背
比べデ、船ハ山ヘ上ルデアラウ(笑聲)
尤モ日本ノ船ハ皆海底ヘ沈ンデンマツ
タ今日デアリマスカラ、山ヘ上ル心配
ハナイカモ知レマセヌガ、併シ國庫タ
ケノ用意テ安心シテ居タナラバ、或ハ
以テ國民ノ大半ガ餓鬼道ヘ落コチテ、
收拾スベカラザル大慘状ヲ呈スルコト
ニハナリハシマスマイカ、政府當局ニハ
此ノ國庫ノ外ニ如何ナル補充食糧ヲ用
意セラレテ居ルノデアルカ、私ハ能ク之
ヲ承ツテ置キタイノデアリマス、而シ
テ私ハ此ノ際特ニ松村農相ニ進言致シ
タイモガアリマス、ソレハ松葉ヲ粉
食デアリマス、古來仙人ハ松葉ヲ食べ
テ千年壽ノ命ヲ保ツタト申シテ居リマ
ス、私ハ日本人ニ松葉ヲ獎メテ、仙人
ノ眞似ヲセヨト申ス者デハゴザイマセ
スガ、松ハ全國到ル處ニ繁茂シテ、而モ
其ノ松葉ニハ神祕的ナ養生價值ガ含ム
レテ居ルモノト申サレテ居ルノデアリ
マスカラ、松葉ヲ粉末ニシタモノニ小糠
ヲ加へ、之ニ蕷麥粉ナリ、麥粉ナリヲ加
ヘテ、「パン」ナリ雜炊團子ニシテ、一日

ニシマスレバ、米ノ節約ハ大シタコトニナリ、此ノ緊迫セル食糧事情ヲ緩和スルコトニ偉大ナル力ガアルト思フノデアリマスガ、松村農相ハ此ノ點ヲ如何様ニ考ヘテ居ラレルノデアルカ、私ハ元來饑饉來ノ虞アル時ニハ、糜穀ノ粉食、藁ノ粉食ヲナサシムルダケノ用意ガ必要デアルト唱道シテ居ル者デアリマスガ、併シ此ノ糜穀ヤ藁 中ニハ硅酸ヤ「カロリー」ノ關係ガアリマシテ、多クノ異論ガアルヤウデアリマスケレドモ、小糠ニ至リマシテハ何人モ之ヲ否定スル者ハアリマセヌ、實際又小糠ハ硅酸ノ爲ニ胃腸障碍ヲ起ス心配モナク、滋養價値ハ十分ニ存在シ、「カロリー」ノ關係ニ於キマシテモ心配ハナイカラ、食糧事情ノ緊迫セル今日ニ於テハ、人間ノ食糧トナサシメ、他ノ方へハ併シ茲ニ考ヘナケレバナラヌコトハ玄米食トノ關係デアリマス、玄米食ヲ獎メマスト、小糠ハ得ラレナイコトニナリマスカラ、玄米食信者ノ方ニハ暫クノ間御辛抱ヲ願フコトニ致シ、此ノ際断然玄米食ヲ禁止シテ、米ハ必ず九六%搗、即チ四分搗ニナサシメ、之ニ依ツテ得タル小糠ハ我々ノ食糧ニ廻シ、之ニ松葉ヤ蕎麥粉ヲ加ヘテ、食ハシムルヤウニスレバ、米ノ節約頗ル大ナルモノガアルト存ジマスガ、松村農相ノ御所見ヲ伺ツテ置キタイノデアリマス尙ホ此ノ機會ニ今一ツ進言シタイモノガアリマス、ソレハ桑葉ヲ蠶バカリ

デナク、人間ノ食糧トシテ利用セシム
ルコトデアリマス、尤モ近頃ハ桑葉ノ
粉食ガボツヽ行ハレテ來テ居リマス
ガ、大部分ハ硬化セシメテ空シク散ラ
シメテ居ルノデアリマス、食糧難ノ今
日是ハ如何ニモ勿體ナイコトデアリマ
スカラ、桑葉ノ將ニ硬化ゼントスル一
歩手前ニ於テ之ヲ採集シ、四五分間程
之ヲ煮沸シテ後桶中ニ入れ、其ノ煮汁
ヲ掛け貯藏シ、必要ニ應ジテ三四分
四方位ニ切斷シテオ米ト共ニ之ヲ炊ク
ノデアリマス、斯ウシマスレバ頗ル美
味シク食べ得ラレルノデアリマス、而
シテ桑葉ヲ分株シタル成績ニ依リマス
ト、凡ユル植物中其ノ滋養價值ニ於テ
ハ、桑葉ノ右ニ出ヅルモノナシトマデ
言ハレテ居リマスカラ、此ノ桑葉ヲオ
米ト共ニ炊イテ節米ノ資ニ供シ、或ハ
汁ノ實トシテ野菜代リニスルコトハ、
未利用資源開發ノ一トシテ大イニ推奨
スペキモノデアルト信ズノデアリマス
ガ、此ノ點ニ付キマシテモ松村農相ノ
御所見ノアル所ヲ伺ヒタイノデアリマ
ス

第三ニ御尋ネ致シタイノハ肥料問題

デアリマス、我國ノ農作物ガ一昨年ヨ
リモ昨年、昨年ヨリ本年ト其ノ生産
力ガ減退シ、就中米ノ收穫ニ於テ其ノ
減收甚シキモノアルハ、天災地變ヤ氣
候ノ關係モアルコトハ申スマデモナイ
ガ、肥料ヲ満足ニヤリ得ナカツタト云
フコトガ其ノ最大原因デアルコトハ、
何人モ之ヲ認ムル所デアリマシテ、無

肥料農業即チ奪掠的農業ノ經營が如何
ニ恐ルベキモノデアルコト云フコトヲ
能ク認識致シタル農家ハ、戰時中ハ已
步手前ニ於テ之ヲ採集シ、四五分間程
之ヲ煮沸シテ後桶中ニ入れ、其ノ煮汁
ヲ掛け貯藏シ、必要ニ應ジテ三四分
四方位ニ切斷シテオ米ト共ニ之ヲ炊ク
ノデアリマス、斯ウシマスレバ頗ル美
味シク食べ得ラレルノデアリマス、而
シテ桑葉ヲ分株シタル成績ニ依リマス
ト、凡ユル植物中其ノ滋養價值ニ於テ
ハ、桑葉ノ右ニ出ヅルモノナシトマデ
言ハレテ居リマスカラ、此ノ桑葉ヲオ
米ト共ニ炊イテ節米ノ資ニ供シ、或ハ
汁ノ實トシテ野菜代リニスルコトハ、
未利用資源開發ノ一トシテ大イニ推奨
スペキモノデアルト信ズノデアリマス
ガ、此ノ點ニ付キマシテモ松村農相ノ
御所見ノアル所ヲ伺ヒタイノデアリマ
ス

「トン」昭和二十一年度末即チ明後年
ノ八月頃マテニ二百萬トンヲ產出致
シタイト云フ計畫デハアルガ、併シ石
炭ヤ資金ノ關係デ、ソレモドウナルカ
分ラナイト云フコトデアツテ、況シテ
燐酸ヤ加里ニ至リマシテハ、海外輸送
ノ關係上殆見込ミガ立タナイト云フ
コトデアリマス、斯カル期待薄ノ下ニ
又ゾロ掠奪の農業ノ經營ヲナシムル
ガ如キハ危險極マル話デアツテ、增產
上由々シキ大問題デアルト思ヒマス、
斯カル危道ヲ踏マンヨリハ、此ノ際政
府ハ自給肥料ニ全力ヲ傾到シ、大イニ
之ヲ激勵シ、場合ニ依ツテハ嚴罰主義
ヲ以テ臨ンデモ宜イデハナイカトマデ
考ヘサセラレルノデアリマス、私ノ是
給肥料即チ堆肥ト燐炭肥料ト併用シ
ノデアリマス、然ルニドウ云フモノ
テ居ル農家ハ、化學肥料ナドヲ使用セ
ズトモ、立派ニ增產ノ資ヲ擧ゲテ居ル
カ、農林省ヲ初メ各府縣ノ農業技術者

ノ大部分ハ此ノ自給肥料タル燐炭肥料
ニ増產ノ實ヲ擧ゲ、食糧難ヲ克服シタ
ムヲ得ナイトシマシテモ、終戰後ノ今
日ニ於テハ思フ十分ニ肥料ヲ與ヘテ、
アリマスガ、政府當局ノ言明スル所ニ
依リマスレバ昭和二十一年度末頃マデ
ニ、硫安及び石灰窯素ガ約七十八萬
「トン」昭和二十一年度末即チ明後年
ノ八月頃マテニ二百萬トンヲ產出致
シタイト云フ計畫デハアルガ、併シ石
炭ヤ資金ノ關係デ、ソレモドウナルカ
分ラナイト云フコトデアツテ、況シテ
燐酸ヤ加里ニ至リマシテハ、海外輸送
ノ關係上殆見込ミガ立タナイト云フ
コトデアリマス、斯カル期待薄ノ下ニ
又ゾロ掠奪の農業ノ經營ヲナシムル
ガ如キハ危險極マル話デアツテ、增產
上由々シキ大問題デアルト思ヒマス、
斯カル危道ヲ踏マンヨリハ、此ノ際政
府ハ自給肥料ニ全力ヲ傾到シ、大イニ
之ヲ激勵シ、場合ニ依ツテハ嚴罰主義
ヲ以テ臨ンデモ宜イデハナイカトマデ
考ヘサセラレルノデアリマス、私ノ是
給肥料即チ堆肥ト燐炭肥料ト併用シ
ノデアリマス、然ルニドウ云フモノ
テ居ル農家ハ、化學肥料ナドヲ使用セ
ズトモ、立派ニ増產ノ資ヲ擧ゲテ居ル
カ、農林省ヲ初メ各府縣ノ農業技術者

ノ大部分ハ此ノ自給肥料タル燐炭肥料
ニ對シ、餘りニモ熱意ガナサ過ギルト
ムヲ得ナイトシマシテモ、終戰後ノ今
日ニ於テハ思フ十分ニ肥料ヲ與ヘテ、
アリマスガ、政府當局ノ言明スル所ニ
依リマスレバ昭和二十一年度末頃マデ
ニ、硫安及び石灰窯素ガ約七十八萬
「トン」昭和二十一年度末即チ明後年
ノ八月頃マテニ二百萬トンヲ產出致
シタイト云フ計畫デハアルガ、併シ石
炭ヤ資金ノ關係デ、ソレモドウナルカ
分ラナイト云フコトデアツテ、況シテ
燐酸ヤ加里ニ至リマシテハ、海外輸送
ノ關係上殆見込ミガ立タナイト云フ
コトデアリマス、斯カル期待薄ノ下ニ
又ゾロ掠奪の農業ノ經營ヲナシムル
ガ如キハ危險極マル話デアツテ、增產
上由々シキ大問題デアルト思ヒマス、
斯カル危道ヲ踏マンヨリハ、此ノ際政
府ハ自給肥料ニ全力ヲ傾到シ、大イニ
之ヲ激勵シ、場合ニ依ツテハ嚴罰主義
ヲ以テ臨ンデモ宜イデハナイカトマデ
考ヘサセラレルノデアリマス、私ノ是
給肥料即チ堆肥ト燐炭肥料ト併用シ
ノデアリマス、然ルニドウ云フモノ
テ居ル農家ハ、化學肥料ナドヲ使用セ
ズトモ、立派ニ増產ノ資ヲ擧ゲテ居ル
カ、農林省ヲ初メ各府縣ノ農業技術者

ノ大部分ハ此ノ自給肥料タル燐炭肥料
ニ對シ、餘りニモ熱意ガナサ過ギルト
ムヲ得ナイトシマシテモ、終戰後ノ今
日ニ於テハ思フ十分ニ肥料ヲ與ヘテ、
アリマスガ、政府當局ノ言明スル所ニ
依リマスレバ昭和二十一年度末頃マデ
ニ、硫安及び石灰窯素ガ約七十八萬
「トン」昭和二十一年度末即チ明後年
ノ八月頃マテニ二百萬トンヲ產出致
シタイト云フ計畫デハアルガ、併シ石
炭ヤ資金ノ關係デ、ソレモドウナルカ
分ラナイト云フコトデアツテ、況シテ
燐酸ヤ加里ニ至リマシテハ、海外輸送
ノ關係上殆見込ミガ立タナイト云フ
コトデアリマス、斯カル期待薄ノ下ニ
又ゾロ掠奪の農業ノ經營ヲナシムル
ガ如キハ危險極マル話デアツテ、增產
上由々シキ大問題デアルト思ヒマス、
斯カル危道ヲ踏マンヨリハ、此ノ際政
府ハ自給肥料ニ全力ヲ傾到シ、大イニ
之ヲ激勵シ、場合ニ依ツテハ嚴罰主義
ヲ以テ臨ンデモ宜イデハナイカトマデ
考ヘサセラレルノデアリマス、私ノ是
給肥料即チ堆肥ト燐炭肥料ト併用シ
ノデアリマス、然ルニドウ云フモノ
テ居ル農家ハ、化學肥料ナドヲ使用セ
ズトモ、立派ニ増產ノ資ヲ擧ゲテ居ル
カ、農林省ヲ初メ各府縣ノ農業技術者

多イ年ガ七千二百萬石、最モ少イ年ガ
千二百萬石以上ノ收穫ハ舉ダラレナイ
ト見テ宜イト思ヒマスガ、併シ現在
百粒前後ノ獎勵品種ヲ改メテ二百粒前
後ノ品種トスレバ、本年ノ如キ惡作デ
三四千三百萬石ノ稻作ハ、是ガ倍額
八千六百萬石ノ收穫トナリマスカラ、
食糧難ニ苦シマナクテモ宜シイコトニ
ナルデアリマス、况シヤ五千萬石ノ
稻作トスレバ一億萬石ニナリ、六千
萬石ノ稻作トスレバ其倍ノ額ノ一億二
千萬石ヲ舉ガラレマスカラ、食糧問題
ハ一舉ニシテ解決サレルコトニナル
デアリマス、此ノ私ノ主張ハ是マデ請
願委員會ニ於テモ、又建議委員會ニ於
キマシテモ通過シテ、今ハ唯政府當局
ノ決意如何ニ依ツテ、全國ニ多收穫本
位、稻ノ品種ガ行ハル、ヤウニナル
カ、ソレドモ行ハレナイヤウニナルカ
ト云フコトニナツテ居ルノデアリマ
ス、私ヲシテ忌憚ナク言ハシムレバ、
稻・品種改善問題ハ鐵ノ品種改善問題
ニ比較致シマシテ、確カニ二、三十年
ハ遲レテ居ルト思フノデアリマス、松
村農相ノ之ニ對スル御所見ヲ伺ヒタイ
ノデアリマス

ニモ拘ラズ、一向ニ増産ノ實ガ見ラナ
アリマセウカ、一體我國ノ六百萬町
歩／耕地、三百三十萬町歩ノ水田ニハ
増産／餘力ガアルノデアルカ、ソレト
モナイノデアルカ、私ハ色々ナ點カラ
之ヲ調べテ見マシタガ、大イニ増産ノ
餘地アリト申上ゲタイノデアリマス、
今稻作ニ付テ之ヲ調べベヲ見マスト、反
當一石前後カラ四五石マデノ差、即チ
開キガアルノデアリマス、又甘藷、馬
鈴薯ニ付テ之ヲ調べテ見マシテモ、反
當百貫前後カラ二千貫以上マデノ開キ
ガアルノデアリマス、此ノ大ナル開キ
ノアルト云フコトガ、即チ増産上ニ大
餘力ト餘地ガアルト云フコトニナルト
思フノデアリマス、ソユデ米ノ反當一
石前後ノ生産高ヲ二石前後ニ、又二石
前後ノ生産高ヲ三石前後ニト云フ風
ニ、順次其ノ生産能率ヲ引上げ、又甘
藷ヤ馬鈴薯ノ反當百貫前後ノ生産ヲ五
百貫前後ニ、又五百貫前後ノ生産高ヲ
千貫前後ニ、其ノ生産能率ヲ引上ゲル
コトガ、即チ増産ノ實ヲ擧ゲル所以デ
アリマシテ、ソレニハ農事試験場ト農
家トヲ能ク結ビ付ケ、又名人、即チ篤
農家トカ老農家トカ呼バル、人達ト一
般農家ト云フモノトヲ、眞ニ能ク之ヲ
結ビ付ケルコトガ一番良イ増産能率ノ
引上げデアルト思フノデアリマス、實
際農事試験場ニ於テ行ハレタ試験研究
ノ中ニハ、増産上大變立派ナモノガア

試験成績デアツテ我等ノ眞似シ得ベキモノデハナイト考ヘ、下手ナ眞似ヲシテ失敗シテハツマラヌト之ヲ片付ケテ居リマス、又世間ニハ所謂名人ト云フモノガアリマシテ、甘諸ノ如キ、馬鈴薯ノ如キ、反當二千貫ヤ三千貫ト云フ大量ノ生産ヲシテ居ル者ガアリマスキレドモ、アレハ老農家ノスルコトデアフル、篤農家ノヤルコトデアツテ、我々ノ容易ク眞似シ得ルコトデハナイト、別物扱ヒシテ振向キモシナイト云フ傾向ガ大イニアルノデアリマス、是レデハ如何ニ良イ方法ガアリマシテモ、増産ノ實績ハ何年經ツテモ舉リマセヌ、故ヲ以テ此ノ農家ノ考ヘ方ヲ一日モ早ク改メサセテ、如何ナル低位ノ農家デモ、此ノ農事試験場ノ良イ試験成績ヲ直チニ取シテ以テ應用シ、名人即チ篤農家や老農家ノ方法ヲ實行セシムラヤウニスルコトガ、今日ノ増産上ノ急務デアルト申サネバナリマセヌ、果シテ然ラバソレハ如何ニシタナラバ官シイカト云フニ、農家ト試験場トノ間、又農家ト名人トノ間ヲ能ク結付カシムル仲介機關トデモ申シマセウカ、應用技術ノ研究所ト云フヤウナ紹介機關ヲ設置シテ、此ノ機關ノ中ニ各種試験場ノ、增産上最モ良イ試験成績ヤ、名人ト言ハレル人々ノ特殊栽培法ヲ悉ク之ヲ網羅シテ、所謂箱庭式ノヤリ方デハナク、實際農家ノヤツテ居ル狀態ニ於テ、或ハ氣候風土ノ上カラ、或ハ肥培管理ノ品種、種類ノ上カラ、或ハ

上カラ比較研究シテ、何レノヤリ方、又何レノ方法ガ一番良ク經濟上ノ收穫ヲ擧ゲ、カメ得タル最善最上ノ方法、ヤリ方ヨリ其ノ研究機關ノ中デ養成シテ居ル研究所ヲ能ク體得セシメ、應用技術ノ上ニ於テ、十二分ノ試煉ト訓練トヲ與テ、何人ニ對シテモ立派ニ之ヲ指導シ得ル眞ノ技術者ヲ作ラシテ、之ヲ農町村ニ送ツテ町村技術員タラシメ、既位農家ノ指導者タラシムルノアリス、而シテ此ノ機關ハ都道府縣ノ農業會ヲシテ之ヲ設置セシメ、政府ハ之ニ對シテ出來ルダケノ助成ヲ與ヘ、其設備ノ完成ヲナサシメ、一日も早ク農產農法ガ全國ノ津々浦々ニマデ徹底シテ、如何ナル低位農家デモ容易ク之ヲ實行シテ、大増産ノ實ヲ擧グ得ルヤニスルコトガ、今日ノ急務アルトニズルノデアリマスガ、敢テ松村農林大臣ノ御所見ヲ伺ヒタインデアリマス、以上ヲ以テ私ノ質問ヲ終リマス(拍手)〔國務大臣松村謙三君登壇〕

一新シテ、サウシテ増産ニ勵ンデ貢フ
コトガ何ヨリ必要デゴザイマス、根本
的ノ改正ヲト云フ御話デゴザイマス
ガ、此ノ民主的ノ機構ガ門ガ開カレ
テ、ソシテ其ノ上本當ニ農民ノ機關トナツテ、其ノ上ニ起ル色々ノ農民ノ聲
ヲ聞イテ、サウシテ根本的ニ改ムベキ
モノガアレバ其ノ時ニ改メテ然ルベシ
ト存ジマシテ、今回ハ唯其ノ民主的ノ
門戸ヲ開ク程度ニ止メタ次第デゴザイ
マス

次ニハ三百萬トン」デ足ラナイヂヤ
ナイカト云フ、色々需給推算ヲ承リマ
シタガ、大體其ノ通りデアリマス、併
シナガラ今日ノ此ノ状態ニ於キマシテ
數字ニ御示シニナリマシタ平時ト同ジ
ヤウナ食糧ヲ、敗戦ヲ致シマシタ此ノ
場合ニ取ルト云フ要求ハ、今日歐洲其
ノ他ノ食糧事情ト併ハセ考ヘマス時
ニ、サウ云フ譯ニハ參リマセヌ、ヤハ
リ出来ルダケ忍ベルダケノ必要ナ、最
少限度ノ程度デ此ノ食糧難ヲ突破シ
ナクテハナラナイ、隨ヒマシテ三百萬
「トン」デハ足リマセヌケレドモ、併シ
此ノ全量デ、出來マスナラバ國民ハ飢
エナイデ、サウシテ活動力ヲ最低ナガ
ラ持チ得ルヤウニヤラナクテハナラナ
イ、ソレニ付テハ三百萬トン」入レテ
モ尙ホ足ラザル部分ヲ、今日マデノ食
糧以外ノ未利用資源ニ依ルモ、デ之ヲ
源ニ付キマシテ色々ノ御話ヲ承リマシ

イデ、凡エル物ヲ食糧化シテヤツテ行キタイト存ジテ居リマス、ソシテ之ヲ利用シ得ル根柢ヲ作ツテ置カナクチャナラヌ、ソレハ何カト申シマスト、粉食ニ必要ナ未利用資源ト云フモノハ、多ク粉食ノ方法ニ依ラクチヤナラナ、イ、其ノ粉食ヲスルノニハ、今日日本ニアル設備デハ間ニ合ヒマセヌ——間ニ合ヒマセヌト申スヨリモ加藤君御承知ノヤウニ、非常ニ不足致シテ居ルノデゴザイマスカラ、今度ノ議會ニ御協賛ヲ得タイト思ヒマシテ、未利用資源ノ設備其ノ他ニ付テ相當ノ豫算ヲ提出致シタイト存ジテ、今日提案ノ運ビニナツテ居ルノデゴザイマス、是ハ大體ノ考へ方ハ大凡截斷機ヲ八千臺、粉碎機ヲ二千臺、乾燥機ヲ二千臺、此ノヤウナモノヲ拵ヘ、之ヲ組ミ合ハセマシテ大體全國三百箇所程配置致シ、太キナ都市ニハ之ニ依ツテ「パン」ニ焼キ得ル設備ヲ致シ、十分ニ利用シ得ル用意ヲ致シマシタラバ、御詫ノヤウナ松ノ葉モ、其ノ他色々ナモノモ之ニ依ツテ食糧化シ得ルノデアリマシテ、其ノ食用化ノ範圍ハ御示シノ物以外ニ相當ニ廣イノデアリマスカラ、之ニ全力ヲ盡シタイト存ズルノデゴザイマス

テモ、是非生産能力ヲ回復致シマセヌト、今日ノ農業ハ自給肥料ダケニ依ルヲ大イニ増産致シマスト共ニ、御詫ノヤウナ自給肥料ハ又農民ニ御願ヒヲシ出テ來ルダケ一ツ努力ヲシテ戴キタシタガ、是ハ御承知ノヤウニ勞力ガ足リマセヌノデ、十分ノ成績ヲ擧ガルコトハ出來マセナンダガ、今日農村ニ勞力ガ充實致シマシタナラバ、自給肥料ヲ作リマスコトモ、戰時中ヨリハヨリ良イ成績ヲ擧ゲ得ルコトト存ジマシテ、今日農業會其ノ他ヲ通ジテ、農民ニ自給肥料ヲ作ルヤウニ獎勵モシ、努力モ致シテ居ルヤウナ次第デゴザイマス

ヨリ、私ガ曾テ知事ヲ致シテ居リマシ
タ時代ノコトニ付キマンシテ御叱リマシ
ツタノアリマスルガ、煙炭肥料ニ付
マスケレドモ、併シ何分私ノ熟意ガ加
藤君ノ御期待通りニ參リマセヌコトヲ
大變恐縮ニ存ジテ居ル次第アリマ
ス

第一ハ、我ガ國ガ「ボツダム」宣言ノ受諾ヲ致シマシテ、其ノ實踐ヲナスニ當リマシテハ、我ガ國ハ凡ニル部門ニ於テ、急速ニ軍國主義並ニ極端ナル國家主義ヲ拂拭スルト共ニ、進ソデ平和日本再建ノ爲ニ民主主義日本ヘノ改革ヲ斷行シナケレバナラナイノデアリマス、今回議會ニ提出セラレマシタル一聯ノ法律案ハ、總體之ヲ目標トシテ居ルモノト言ツテモ宜イノデアリマス、此ノコトハ法案ノ内容ガ民主主義的アルト云フコトバカリデハ足ラナイノデアリマシテ、其ノ法案ノ形成過程ニ於キマシテモ、其ノ法案ノ審議ノ過程ニ於キマシテモ、與ヘラタ時間内ニ於テハ、飽クマデモ民主的手法ニ依リマシテ、豐カナル民意ガ反映スルコトガ、必須ノ條件トセラレモノト私ハ思フノデアリマス、ソレガ民主主義ノ基本的性格デアリマシテ、目標ノ上ニ於テ民主的ヲ目指ス善意——善キ心ガアツタ致シマシテモ、ソレヲ實現スル手段ノ上ニ於キマシテモ、所謂「パ内閣ノ施策ノ足跡ヲ見ル時ニ於キマシテゴザイマス、此ノ觀點ニ立ツテ原スルノデアリマス、私ハ此ノ法案形成ノ過程ニ於キマシテモ、法案審議ノ過程ニ於キマシテモ、内閣ノ一隅ニ依然トシテ戰時下ニ於テノミ許サレタル、

問題ニ於テモ、サウ云フ面ガ我々ニチ
ラチラシテ來ルノデアリマス、憲法改
正ハ憲法改正ト稱セラレテ居リマスル
ケレドモ、恐ラク、「グナイスト」ヤ
「シュタイン」ニ依ツテ影響セラレタ、
サウシテ伊藤公ガ草案シタ憲法カラ見
レバ、今後豫想セラル、憲法改正ハ、
全ク其ノ質的變化ヲ遂ゲルデアラウコ
トガ豫想セラル、ノデアリマシテ、此
ノ意味合ニ於キマシテ、今後アルベキ
憲法改正ハ、内容ニ於キマシテハ新憲
法ノ創造ト云ツテモ宜イ程ノ、大キナ
問題ガ含マラレテ居ルモノデアリ、是
ガ實ニ今日以後ニ於テ我々ガ努力シナ
ケレバナラナイ道義日本再建ノ基礎ニ
ナルモノデアリマス、所ガ此ノ重要ナ
ル憲法改正ノ手續等ニ於キマシテモ、
私ハ政府ガ黒星ヲ貰ツテ居ルノデハナ
イカト思フ、ソレハ既ニ廢止サルベキ
命運ニアツタ内大臣府ニ依ツテ先ヅ最
初ニ取上ガラレ、其ノ後輿論ノ動キニ
依リマシテ、政府ガ之ヲ國務トシテ取
上ゲルニ至ツタト云フヤウナコトハ、
正ニ民主的ナ憲法改正ガ其ノ手續、手
段、方法等ニ於テ決シテ民主的ナ線ニ
沿ウタ行キ方ヲシテ居ルモノニアラズ
ト考ヘラレルノデアリマス、ソコニ私
共ハ豊カナル民意ヲ反映セシムベキ手
段ヲ、政府ガ執ツテ居ナイコトガ看取
セラレルノデアリマス、此ノ根本方針

省カラ提出セラレタル農地調整法改正案、農業團體法改正法案、水産業團體整法改正法律案、是亦其ノ内容ニ於キマシテハ、「ボツダム」宣言ニ依ツテ示唆セラレテ居リマスル所ノ日本ノ民主化、其ノ經濟部面ニ於ケル民主化ニ急速ナ實現ヲ内包スルモノニアリマシテ、ソレハ實ニ日本農民解放ノ使命ヲ持ツモノト云ツテ宜イト思フノデアリマス、ソレハ舊農地調整法ノ改正デハナクテ、新ナル日本ノ農業ノ基礎タルベキ農地制度ノ法案デアルノデアリマス、又農業團體法改正法律案ノ如キモ、決シテ是ハ從來ノ農業團體ヲ、唯役員ヲ選舉ニ依ツテ行フト云フ點ニミ止マルベキモノデナイモノ、是カラ發足シテ、更ニ幾多ノ農業團體ノ、新シイ活動ガ期待セラレルモノニアリマスノデ、是モ内容ニ於キマシテハ舊キ農業團體法ノ改正デハナクテ、實ニ新シイ時代ニ即應シタル所ノ農業生産者ノ團體法律案、農業團體法改正法律案、是ガ一绪ニナリマシテ、來ルベキ我ガ國ノ農業ノ在リ方ヲ規定スル重要ナル内容ヲ持ツモノニアル、隨て私共ハ率ニ言ヒマスルナラバ、寧ロ舊キ法律ノ改正案ノ手續ヲナサズシテ、單行法ノ提出ト

ス、農林省ニ於キマシテ官僚ガ之ヲ作リ、サウシテ原案ヲ作り、之ヲ閣議ニ諮リ、傳ヘラレル所ニ依リマスレバ、閣議ニ於キマシテ、一ツノ見方ニ依ツテハ重要な修正を行ハレ、初メテ議會ニ提出スル原案が出タト言ハレ居ルノデアリマス、私ハ勿論此ノ農林省ノ出シタ一聯ノ法律案ノ中ニ盛ラレテ居ル所ノ内容ヲ見マシテ、決シテ農林官僚ノ善意ヲ否定スルモノデハナインデアリマス、併シナガラソレガ善意ニ基クモノデアルト云ヒマシテモ、其ノ方法ニ於テ民主的ナ方法ヲ執ラナカツタナラバ、是ハ正シク、間違ヒナク、戰爭中ニ於テ許サレ、今日誤リタル方法トシテ指揮セラレテ居ル官僚「ファッショ」、官僚獨善以外ノ何モノデモナイト考ヘルノデアリマス、私ハナリ、農地調整法ノ改正案ト云フモノ寧口厚生省ノ勞働組合法案ヲ作ル時ニ執ツタマウナ方法ヲ以テ、農業團體法ナリ、農地調整法ノ改正案ト云フモノヲ作ツタマラバ、ヨリ完成シタモノ、ヨリ矛盾ノ少イモノガ、同ジ目標ヲ目指シテ居リマシテモ、出來タデアラウコトヲ想像シナイ譯ニハ行カナイノデアリマス、此ノ點ニ於キマシテ私ハ斯ウ云フ法律案ノ形成過程ニ於ケル「アンチ・デモクラチック」ナ方法、反民主的ナ方法ト云フモノハ、今日速カニ拂拭サレナケレバナラナイデハナイカト考ヘラレルノデアリマス、私ハ今日以後ニ於キマシテモ、内閣ガサウシタ法律案ヲ作ル際ニ於キマシテ、依然

トレテ只今申上ダタマウナ官僚獨善
デ、唯善意ヲ頼リト致シマシテ、官僚
ノミデ以テ作成スルヤウナ方法ヲ今後
トモ執リニナル御意想アルカドウ
カ、私ハ速カニ是ハ打破スルコトニ依
ツテ、民主主義ヘノ途ヲ打開カナケレ
バナラナイト思フノアリマスガ、此
ノ點ニ關スル農林大臣ノ御所見ヲ御伺
ヒ致シタイト存ジマス

次ニ直接農業團體法中改正法律案ニ
付キマシテ質疑ヲ致シタイト存ジマ
ス、私ハ率直ニ申シマシテ、農業團體ガ
今日以後ノ新シイ時代ノ農業及ビ農民
ノ要請ニ應ズル爲ニハ、少クトモ二ツ
ノ改革目標ヲ持タナケレバトランナイト
信ジマス、一ツハ其ノ形態ニ付テデゴ
ザイマス、戰時中ニ於キマシテ農業團
體ハ其ノ役員ノ任命及ビ官廳ノ指導等
ヲ通ジマシテ極メ官僚的デアツタコ
トハ、農林大臣ノ説明ニモ明カニセラ
レテ居リマス、併シソレバカリデハナ
クテ、アノ形態ト云フモノハ戰時中ニ
於テ官僚及ビ官僚ト提携シ、更ニ進ン
デ結託シタ或ル種ノ人物ノ獨裁權ヲヨ
リ容易ナラシムル所ノ一ツノ形態デア
ツタト云フコトガ、今日私共ニ強ク反
省サセラレルノデアリマシテ、之ヲ速
カニ拂拭スルト云フコトハ何トシテモ
必要ナコトデアリマス、官僚的カラ民
主的ヘノ急速ナル移行ガ要請セラレル
ノデアリマス、是ガ今度政府ガ提出シ
タル農業團體法中改正法律案ヘ申ニ、
其 使命ヲ達成スベキ定メラレテ居ル

ノデアリマス、併シナガラ此ノ形態上ニ於ケル官僚的カラ、民主的ヘト云フコトダケガ實現サレテ、ソレデ以テ直チニ農業團體が自主的ナ活動ヲ開始シ、サウシテ新時代ノ農業及ビ農民、要請ニ十分應ジ得ルヤウナ活動ヲナースト期待スルガ如キハ、極メテ現實カラ遊離シタル所ノ甘イ考ヘデナケレバナラナイノデアリマス、私共ハ形態ニ於テ官僚的ニアツタト云フコトガ農業團體ノ活動ヲ阻碍シ、農民ノ信賴ヲ失ツタバカリデハナクテ、形態以外ニ其ノ農業團體ノ内容ニ於キマシテ、其ノ農業團體ノ基本的構造ノ面ニ於キマシテモ、改革シナケレバナラナイモノガアツタコトヲ考ヘラレルノデアリマス、農業團體ノ基本的ナ構造ノ在リ方ニ付テ私共ハ新シク考へ、之ヲ實踐シナケレバナラナイノデアリマス、其ノ形態ノ改革ト構造ノ改革ト相俟ツテ完成セラレタ時ニ於テ、初メテ農業團體ノ黎明ハ來ルモノト考ヘルノデアリマス、其ノ内容、其ノ構造ノ在リ方ニ付テハ、ドウ云フコトデアルカト申シマスルナルバ、先づ第一ニ考ヘラマスコトハ、農業團體ノ統合ニ當リマシテハ、單ニ農業者ニ關係スル團體デアルカラト云フノヲ唯一ノ賴リトシテ、總テヨ綜合シ、統一シ、一元化シテシマツタノデアリマス、是ハ實ニ戰時ニ於テ全國的ナ所謂農業「コンツエルン」トモ云フベキモノヲ作り上ゲマシテ、其ニ上ニ獨裁

タガ如クニ考へラレ、是ガ今私共ニ
切ニ反省セラレルノデアリマス、斯ウ
云フ無理ナコトヲヤツタ結果ト致シマ
シテ、其ノ中ニハ大キナ矛盾ガアツタ
ノデアリマス、即チ産業組合、是ハ組
合員ノ出資ヲ基礎ト致シマシテ出來テ
居リ、經濟行爲ヲ中心トシテ運營セラ
レタ團體デアリマシテ、一方農會ハ、
是ハ分擔金ニ依ルテ收受セラレ、技術
的指導獎勵ヲ中心ト致シマシテ、一聯
ノ活動ヲナシテ居ツタノデアリマス、
此ノ分擔金ニ依ル組合、出資ニ依ル組
合、一方ハ技術的指導デアリ、一方ハ
經濟行爲デアル、斯ウ云フ風ニ、分柝
シテ考ヘテ見ル時ニ當リマシテ、同ジ
農業部面ノ仕事トハ云ヒナガラ、ソコ
ニハ同質的ナモノデハナイ、相容レザ
ル異質的性格ヲ私共ハ見ナイ譯ニハ行
カナイノデアリマス、此ノ異質的ナモ
ノヲ無理ニ一元化シタコトニ問題ガア
ツタノデアリマシテ、是ハ今日ニ至ル
マデノ間ニ於テ、此ノ矛盾ハ全然解決
セラレテ居リマセヌデシタ、未消化ノ
懸ニ今日ニ至ツテ居リマス、是ガ戰時
下ニ於テ大キナ使命ヲ持タセラレ、大
キナ責任ヲ持タセラレナガラ、尙ホ且
ツ農業會ガ之ヲ完全ニ果スコトヲ得ナ
カツタ根本的ナ原因デアルト言ハナケ
レバナラヌノデゴザイマス、隨ヒマシ
テ私共ハ今日此ノ農業會ノ根本的改組
ヲナスニ當リマシテハ、此ノ矛盾ヲ解
決シナケレバナラナイ、矛盾ノ解決ト
云フ無理ナコトヲヤツタ結果ト致シマ

テ農業團體ト云フモノハ、其ノ團體ガ持ツ固有ノ目的ヲ執拗ニ追求スルコトニ依ツテ、立派ナル成果ヲ擧ゲルコトガ出來マシ、供出ノ成果モ期待スルコトガ出來ルノデアリ、又ス、又今日食糧品輸入ノ見返り物資トシテ、養蠶業ガ新タナ脚光ヲ浴ビルコトニナリマシタ、是等ノコトヲ急速ニ其ノ成果ヲ擧ゲヨウトスルナラバ、私ハヤハリ養蠶業ノ團體ヲ此ノ綜合的ナ團體カラ分離セシメル、畜産或ハ茶葉、サウ云フヤウナモノヲ、總テ其ノ業種別ニ從ツテ元ニ還スト云フコトガ、私ハ本當ニ農業體ノ機能ヲ發揮セシムル所以デアルト考ヘルノデアリマスガ、此ノ點ニ付キマシテ今度ノ改正案ハ何等觸レテ居ナイノデアリマス、單ニ役員ノ選舉ト云フヤウナコトヲ通ジマシテ、農業團體ガ自主的ナ活動ヲ致スデアラウ、其ノ結果大キナ役割ヲ果スデアラウト云フヤウナコトハ、極メテ現實カラ離レタ甘イ考ヘデアルト言ハナケレバナリマセヌ、隨テ今度ノ改正ト云フモノハ根本ヲ忘レタ改正デアリマス、政府ハ此ノ點ニ付テ此ノ内容ノ改革、其ノ構造ノ在リ方ニ付キマシテ如何ナル所見ヲ持ツテ居ルカ、又此ノ改革以外ニ更ニ根本的ナ改革案ヲ

臣ノ所見ヲ質シタイト存ジマス
ソレカラ水産業團體法ノ改正案ニ付
テデアリマスガ、是ハ農林大臣ノ説明
ニアツタ如ク、農業團體法中改正法律
案ト同ジ内容ト、同ジ手法ヲ以テ出
テ居ルモノデアリマスガ、併シナガラ
是モ同一ノコトガ言ヒ得ルノデアリマ
ス、ソレダケノコトヲヤツタダケデ果
シテ水産業ノ團體ハ、此ノ第十二條ニ
於テ一カラハマデ列舉セラレタル數々
ノ仕事ヲ、十分果スコトガ出來ルカド
ウカト云フコトデアリマス、今日洵ニ
言語ニ絶スル所ノ窮迫シタル食糧事情
ノ際ニ於キマシテ、海洋國日本ト致シ
マシテハ、水産業ノ發達、漁業ノ發展ト
云フコトニ對シマシテ期待スルコト極
メテ多イノデゴザイマス、殊ニ「ボツダ
ム」宣言ノ受諾ニ依リマシテ、今日マデ
ノ日本ノ資源、領土ハ失ハレテ居リマ
ス、唯與ヘラレタルモノハ海面海下ニ
於ケル所ノ漁業資源ノ開發デナケレバ
ナラナイト思フノデアリマシテ、漁業
ノ今日以後ニ於テ期待セラレル役割
ハ、決シテ過小評價スルコトハ出來ナ
イバカリデナク、如何様ニ之ヲ大キク
見テモ大キク見過ギタト云フコトノナ
イ程、大キナモノヲ水産業團體ノ活動
ハ内包シテ居ルモノト私ハ信ズルノデ
ウシタ形態上ニ於ケル改革ノミヲ斷行
スルコトニ依ツテ、ヒトリデニ滑り出

出来ルト云フヤウナコトヲ考ヘルコト
ハ極メテ甘イノデアリマス、殊ニ又今
日ハ惡條件ガ山積シテ居リマス、資材、
勞務、其ノ他等々ノ點ニ於テ、何レモ
惡條件ガ山積シテ居ル時ニ當リマシテ
ハ、單ニ自主的活動ヲ期待スルト云ツ
テ、活動ニ對スル責任一切ヲ民間ノ團
體ニ任せ切リデアルコトハ、決シテ私
ハソレガ民主的デアルトハ思ハレナイ
ノデアリマス、強力ナル政府ノ指導ガ
要請セラレルノデアリマス、此ノ點ニ
關シマシテ私共ハ水產業ニ關スル今日
以後ノ使命ヲ達成スル爲ノ政府ノ新シ
キ構想ニ關シマシテハ、何卒開知スル
所ガナノイノデアリマス、此ノ際此ノ機
會ニ於キマシテ、農林大臣カラ其ノ點
ニ付テ御説明ヲ戴キマスナラバ、幸福
ハ私ノミニ止マラザルモノガアルト信
ズルノデアリマス、御所見ヲ御尋ね致
シマス

最後ニ御尋ね致シタイト存ジマスノ
ハ、結論カラ申シマスナラバ、皇室御
料地ノ農民ヘノ開放ト云フヤウナコト云
ニ關シマシテ、輔弼ノ責任ヲ有スル國
務大臣ハ如何ナル御考ヘガアルカト云
バ、是ハ私共ノ立場カラ申シマスレ
バ、洵ニ口ニスルダニ畏多イコトナノ
デアリマスルガ、民衆新聞ノ發刊號ニ
於キマシテ斯フ云フ記事ヲ發見致シタ

地主、生神様ノ正體暴露、斯ウ云フ表現ヲ使ツテ居ルノデアリマス、實ニ私共ハ畏多イト共ニ大キナ衝動ヲ受ケタルカドウカ、或ハ法律ニ觸レルカドウカト云フヤウナ問題デハゴザイマセス、同ジク陛下ノ赤子トシテ生レタルソレ等ノ人々アリマスガ、ソレ等ノ人々ヲシテ敢テ斯ウ云フヤウナ表現ヲ以テ、皇室ヲ非難スルト云フヤウナ舉ニ出デシメタコトニ付キマシテ、政治家ハ深ク反省シナケレバナラナイノデハナイカ、殊ニ陛下ノ御親任ヲ受けテ居ラレル輔弼ノ大仕ヲ有スル國務大臣ニ於テ、其ノ感ガ殊ニ深クナケレバナラナイト云フコトデアリマス、既ニ我ガ天皇陛下ハ、朕ハ爾臣民ト共ニ在リト仰セラレテ居ルノデアリマス、又傳ヘ聞ク所ノ終戦ヲ決定シタ最後ノ御前會議ニ於キマシテ、列席ノ群臣何レモ天皇制ノ問題ニ付テ思ヒ惱ミ、「ボツダム」宣言ヲ最終ニ受諾すべキヤ否ヤニ付キマシテ、論議紛糾シテ纏ラザル時ニ當リマシテ、畏多クモ陛下ノ御簷言ガアリ、其ノ御發言ノ中ニハ、陛下ハ、朕ハ如何様ニアラウトモ、今日戰禍ニ苦シンデ居ル國民ノ悲慘ナル姿ヲ見レバ、此ノ儘續ケル譯ニハ行カナイ、朕ノ身ハ如何様デアラウトモ此ノ際「ボツダム」宣言ヲ受諾スルコトニスル、皆モサウ思へ、同時ニ

程サレマンシタ農地調整法中改正法律案
ヤ、只今出テ居リマスル農業團體法中
改正法律案ノ程度ヲ以テシテ、日本ノ
民主主義ヲ最モ勇敢ニ、強力ニ、妨害
シテ參リマシタル日本ノ農業ト云ヒマ
セウカ、日本ノ封建的農地問題ガ、果
シテ日本ノ民主主義的ノ方向ニ向ツテ
解決シ得ルト御考ヘニナルカドウカ、
是ハ極メテ重大ナル問題デアリマスル
ノデ、少シク言葉ヲ足シテ申述べタイ
ト思フノデアリマス、先日「マンチエ
スター・ガアディイン」ニ依リマスル
ト、日本民主化ノ第一歩ハ眞ニ日本ノ
農業改革カラ始マルト申シテ居リマ
ス、洵ニ其ノ通リデアルト思フノデア
リマス、又更ニ其ノ新聞ハ、日本ニ於
テハ此ノ度ノ敗戦デ軍閥ハ大キナ打撃
ヲ受ケタ、ケレドモ財閥、官僚、地主
ハ依然トシテ存續ラ恣ニシテ居ル、斯
ウ云フヤウナ言葉モアリマス、併シ其
ノ後財閥ノ大キイモノハ解體ヲ命ゼラ
レ、逐次解體ノ非運ニ際會シテ居リマ
ス、官僚亦其ノ陣營ノ一部ガ崩壊シツ
ツアリマスルガ、我ガ日本ノ民主主義
ノ道ヲ最モ強力ニ塞イデ居ル彼等ガ申
シマスル地主勢力ハ、未ダ此ノ二ツノ
法案程度ヲ以テ致シマシテハ、其ノ勢
力ヲ割クコトニハ大シテナリ得ナイト
思フノデアリマス、何故日本ニ於テ農
村ガ封建的ナ勢力デ支配サレテ居ル
カ、此ノコトヲ考ヘて見ナケレバナラ
ナイト思フノデアリマス、一町歩以下

ニ、農民ノ七割以上ヲ占メテ居ルト云
フ事實デアリマス、是等ノ過小零細農
ハ極メテ貧困ナル生活シカ出來ナイノ
デアリマス、ソコニハ經濟上ノ獨立モ
アリマセヌ、農業再生産ノ資力モ十分
ニゴザイマセヌ、有畜農業ヲ致シ、機
械化スルコトモ勿論出來ナイノデアリ
マス、是等ノ貧困ナル零細農ガ日本農
民ノ大部分ヲ占メテ居ルト云フ此ノ事
實ハ何ニ基クカ、實ニ日本ノ土地ガ地
主的ナ所有關係ニ置カレテ居ルト云フ
所ニ、根本的ナ原因ヲ發見シナケレバ
ナラナイト思フノデアリマス、其ノ結
果ハ極メテ高イ小作料、而モ物納ノ小
作料ガアルノデアリマス、農民ハ貧困
デ當然經濟ノ獨立ガゴザイマセヌ、而
モ又ソレニ依リマシテ生殺與奪ノ權ガ
地主ノ手ニフルト云フ事實デアリマ
ス、土地ノ取上等モ類繁ニ行ハレマシ
タ、隨テ經濟上ノ獨立性ガ日本ノ零細
農ニハナイト云フコト、此ノ事ハ延イ
テ社會的ニモ、地主ト零細農ノ間ニ於
キマシテ親分子分ノヤウナ關係ガア
リ、親方子方ノ關係ガ出來、出入リ者
ノヤウナ關係ニ置カレテ居リマス、或
ハ債權者ト債務者ノヤウナ何時モ頭
ノ上ラナイト狀態ニ置カレテ來テ
居ルノデアリマス、唯保護ト、
恩惠ト、服從ト云フ、所謂封建的ナ言葉
ヲ以テ致シマスナラバ、極メテ淳風美
俗ト云フベキデアリマセウケレドモ、
我々ノ今日ノ立場カラ申上ゲマスナラ
バ、何等ノ對等ナ、自由ナ人格ト云フ

モノハソコニハ存在シナイノデアリマス、ソコニコソ日本ノ大部分ヲ占メマスル農民ガ、増産ヲ致サウト致シマシイト云フコトナシデス、日本ノ農業ガ戰時中アレ程強力ニ支援サレナガラ増產シ得ナカツタト云フコトハ、實ニ地主的土地位所有關係ト云フ、經濟的地盤ノ上ニ、過小農ガ其ノ最モ多キヲ占メテ居ツタト云フ所ニ、最モ大キナル原因ヲ見ナケレバナラヌト思ヒマス（拍手）其ノ彼等ノ馴致サレマシタ服從ト隸屬ノ觀念ハ、日本ノ軍國主義者ノ爲ニ最モ宜キ地盤ヲ作ツタノデゴザイマス（拍手）而モソレハ同時ニ反動的ナ政治勢力ノ爲ニモ、最モ強力ナ地盤タリ得タノアリマス、此ノ事實ヲ私達ハ斷ジテ見逃シテハナラナイト思フ、日本ノ封建的ナ土地位所有關係ト云フモノヲ拂拭スルコトナシニハ、今日ノ日本民主主義ノ道ハ斷ジテ滑カニナリ得ナイト思ヒマス（拍手）我々ハ是ニ於キマシテ之ヲ思ヒマスル時ニ、日本ノ今回ノ敗戦モ、實ニ是等ノ點ニ最モ大キナ原因ヲ發見シナケレバナラヌト思ヒマス、私達ハ過去ヲ振返ツテ見マス時ニ、明治維新ノアノ改革モ、土地位參ツタノデアリマス、ソレガ日本ノ資本主義ヲ極メテ歪メタコトニナツテ居リマス、大正ノ末期ニ於ケル我々ノ會テ、無產運動モ、土地位問題ヲ取上げマ

シテ、農民ハ痛切ニ土地ヲ要求シタケレドモ、時ノ支配階級・手ニ合ツテ、此ノ要求ハ遂ニ彈壓シ盡サレテシマツタノデアリマス、是亦日本ニ於ケル土地問題ノ第二次ノ失敗デアル、而モ今日ノ此ノ國際的ナ情勢ヲ考ヘテ見マスル時ニ、第一次歐洲戰後ニ於キマシテハ、「エストニア」「ラトビア」「ルーマニア」「チエコスロヴァキア」ニ於キマシテハ、封建的ナ土地所有關係ハ完全ニ清算シ盡サレ居ルノデアリマス、此ノ度ノ敗戦ニ依リマシテ、「ボーランド」ト「ドイツ」ノ一部ニ於キシテハ、無慈悲ニモ土地ノ無償沒收ガ行ハレツ、アルノデアリマス、進駐軍ノ進駐以來、朝鮮ニ於キマシテハ、生産高ノ約半分ヲ占メテ居リマシタ小作料ガ、三分ノ一以下ニ低下シテ居ルトシマシテ、生産高ノ四割七分ヲ占メテ居リマスル時ニ、「イングランド」デハ僅カニ一割一分、「スコットランド」ニ於キマシテハ一割八分、「フランス」ニ於テサヘモ二割八分ノ小作料シカ取ツテ居ラナノデアリマス、如何ニ封建的土地所有關係ト云フモノガ、高率ナル小作ヲ要求シテ居ルカ、此ノ一つノ事實カラ見マシテモ、日本ノ民主主ハ斷ジテ進行シ得ナイト云フコトヲ考ヘタイト思フノデアリマス(拍手)

然ルニ農地調整法中改正法律案ニ於キマシテハ五町歩以下ノ土地ノ所有ヲ認メテ居リマス、而モソレハ地主トシテノ土地ノ所有ヲ認メテ居ルノデアリマス、此ノ際一ツ思ヒ切ツタ英斷ガ揮ハレナケレバ、必ズ日本ノ民主主義ハ凡ユル方尙ノ力カラ押サレマシテ、一應前進ハスルデアリマセウケレドモ、若シ茲ニ地主ノ存在ヲ、而モ相當量ノ數ヲ占メマスル地主ノ存在ヲ許シマスルナラバ、必ズヤ將來再ビ反動「ファッショ」ノ巣窟ガ、其處カラ芽ヲ出斯ト云フコトヲ考ヘナケレバナラスト思フノデアリマス（拍手）斯様ナ意味ニ於キマシテ私ハ日本ノ封建制度ヲ打倒シテ、完全ナル日本民主主義ノ道ヲ進メル爲ニ、現在ノ如キ農地調整法中改正法律案ヤ、農業團體法中改正法律案ノヤウナ程度ノモノデ以テ、果シテ可能デアルト農林大臣ハ御考ヘニナルカドウカ、ノデアリマス、日本ハ今後獨立國家ト立ツテ居リマス、ソレハ一二日本ガ國際環視裡ニ於テ、日本ノ民主主義ヲ完全ニ實現スルヤ否ヤト云フ此ノ一點ニルカ、洵ニ重大ナル關頭ニ今日ノ場合立ツテ居リマス、ソレハ一二日本ガ國

互ヒハ國難ニ起ツノ眞劍ナル氣持トヲ
チマシテ、私モ御尋ネ致シマスルガ、
農林大臣モ眞劍ニ御答辯アランコトヲ
特ニ要求致スノデアリマス(拍手)
少シ案ノ内容ニ付キマシテ御尋ネヲ
致シタインデアリマスルガ、此ノ法案
動ヲ十分ニスル爲ニ、役員制度ノ改正
ヲサレルト云フ點デアリマス、此ノ團
體法ノ姉妹案デアリマスル所ノ農地調
整法中ニ於キマシテ、不耕作農民、
即チ地主ト云フモノヲ農民トシテ既
ニ御認メニナツテ居ルノデアリマス、
此ノ點ガ一ツ、而シテ現在ノ農業會長
ノ七割以上、約八割近クノ者ガ地主デ
アルカ、若シクハ地主的勢力ニ依ツテ
占メラレテ居リ、極メテ民主主義的ナ
方向カラ緣ノ遠イ勢力ニ依ツテ占メラ
レテ居ルト云フ此ノ第一ノ事實、此ノ
ニツヲ併セテ考ヘマスルナラバ、サウ
知事ノ推薦ニ依ツテ農林大臣ガ任命ヲ
スルト云フ形態ヲ、唯トカラ選舉ニ依
ツテ選フト云フヤウナコトヲ致シマシ
テモ、其ノ選バレルベキ人ガ、先程申
上ゲマシタヤウナ封建的ナ勢力ヲ村ニ
於テ持チ、部落ニ於テ持ソテ居リマス
ルナラバ、恐ラクソコニ現ハレテ參リ
マスル人ハ、多少ノ變リハゴザイマシ
テモ、選舉ト云フ制度ダケガ變ルノデ
アリマシテ、内容ハ殆ンド大部分类
ノナイ顔觸レガ現ハレテ來ルノデハナ

イカト云フコトヲ憂ヘルモノデアリマス、斯様ナ意味カラ致シマシテ、本當ニ此ノ團體法ノ役員ノ制度ヲ改革致サリ若クハ被選舉權ノ權利ヲ與ヘナイト云フコトニシナケレバナラナイト思フノデアリマス(ヒヤク)招手サウ云フ前提ノ上ニ立ツカ、若シクハ土地ヲ國家ガ管理スルト云フ前提ニ立ツカ、此ノ二ツノ前提ノ上ニ立ツテ、零細農ト云フモノガ漸次ナクナツテ、日本ノ農民ハ小農ト中農、即チ一町以上ノ自己經營ヲヤツテ居ル相當福ナル農民ガ日本ノ農村ノ大部分ヲ占メテ居ル、斯ウ云フヤウナ安定セル農民ダケニナリマスルナラバ、多少ノ地主ノ存在ハ問題ハナインデアリマスルガ、現在ノヤウナ土地ノ分配ノ程度、現在ノヤウナ過小零細農ノ實情ヲ以テ致シマスルナラバ、役員制度ノ改正ノ程度ヲ以テ致シテマシテハ、農業會ト云フモノノ運營ハ、依然ト致シマシテ地主的ナ方向及ビ封建的ナ方向ヘトモ引張ラレテ行クモノデアルト云フコトヲ極メテ憂フルモノデアリマス、斯様ナ意味ニ於キマシテ現在ノ役員制度ヲ改正スル前ニ、此ノ案全體ニ付テ更ニ之ト關聯セル農地調整法ノ案ニ付テモ、御考ヘザイマス、之ニ對シマシテノ農相ノ御意見ヲ伺ヒタイト思フノデアリマス

第三回 デコサイマスガ此ノ團體ハ
二ツノ役割ヲ持ツテ居ルヤウデアリマ
ス、一ツハ指導ト統制ニ當ル、モウ一
ツハ販賣、購買、加工利用ト云々タヤ
ウナ、元農業組合的ナ仕事ト、大體ニ
合の仕事ノ二ツガ今日マダ融合セズニ
於テ此ノ二ツノ仕事ヲ受持ツテ居ルヤ
ウデアリマス、農業會の仕事ト農業組
合の仕事ノ二ツガ今日マダ融合セズニ
残ツテ居リマスノニ、此ノ二ツノ仕事
ヲヤルヤウデゴザイマスガ、曾テノ產
業組合的ナ仕事デアリマシタ購買、販
賣、利用加工ト云ツタヤウナ仕事ハ、
勿論其ノ構成「メンバー」デアリマスル
農民ノ自主的ナ、民主的ノ動キニ依リ
マシテ、之ヲ協同組合ノ方向ニ持ツテ
行クト云フコトハ是ハ可能ナノデアリ
マス、我々ハ其ノヤウナ方向ヲ要求致
シタイト思フノデゴザイマスガ、指導
統制ノ點ニ參りマスルト、是ハツノ
大キナ問題ガアルト思フノデアリマ
ス、戰時中ニ於テアツタ如クニ、供出
ガアノヤウナ方法デ今後モ執ラレテ行
ク、此ノ供出ヤ技術ノ方法ヲ指導統制
シテ行クト致シマスルナラバ、農業會
ノ農業會自體ノ仕事トシテヤラスト云
ガ殘ルト思ヒマス、此ノ問題ヲ考ヘマ
スル時、農業會ノ指導統制ノ方向ハ、此
ノ農業會自體ノ仕事トシテヤラスト云
フヨリカ、寧口將來公選ニ依ツテ出テ
參ルデゴザイマセウ町村長ノ下ニアル
町村役場ヘ、所謂政府ガ直接其ノ指導
ノ任ニ當ツテ居リマス所ノ町村役場ノ

方向ニ持ツテ行クト云フコトニ致シマス方
ヲ興ヘテ、寧ロ農業會ハ昔ノ產業組合
ガ仕事ヲシテ來マシタヤウニ、農民ノ
自主的ナ、民主的ナ協同組合ノ方向ニ
持ツテ行クト云フコトニ致シマス方
ガ、寧ロ村ノ今後ノ運營ノ上ニ於キマ
シテ極メテ有利ニナルノデハナイカ、
而モ民主的ナ方向ニ向ツテ、其ノ道ノ
方ガ宜イノデハナイカト私ハ考ヘルノ
デアリマス、特ニ是等ノ點ニ付テ指導
統制ガ依然トシテ農業會ニ残サレマス
ルナラバ、考ヘナケレバナラナイコト
ハ、既ニ今日マデ生産高ノ五割程度ガ
供出デアリマスル場合ニハ、マダ何ト
カ出來タノデゴザイマスガ、六割、七
割ガ供出シテ持ツテ行カレマスル今
日ニ於キマシテハ、中々農業會ニ對シ
マスル農民ノ怨嗟ノ聲ハ高クナツチ參
ツテ居リマス、更ニ其ノ上ニ極メテ收
入ノ多イ作物ノ制限ヲ命令シテ見タ
リ、相當農民ニ向ヒマシテ、戰時中ハ
高壓的ニ臨シテ參ツタノガ農業會ノ役
割テゴザイマシタ、更ニソレダケデハ
ナイ、農民カラ供出セシメマシタ米麥
ノ或ルモノヲ幾ラカ上前ヲ刎ネテ自分達ガ
ニ廻シタト云フヤウナ話モ到ル處聞イ
テ居リマス、農村ニ配給サレマシタ必
需物資ヲ幾ラカ上前ヲ刎ネテ自分達ガ
消耗シタト云フ話モ聞クノデアリマス、
今ヤ農業會ニ對シマシテ、多クノ反感
ト云フヨリカ、況ヒノ聲サヘ農民カラ
出テ居リマス現狀ヲ見ル時ニ、寧ロ此
ノ指導統制ノ仕事ハ村役場ノ方ニ、而

モ公選ニ依ル町村長丁ノ田林役場ハ力ニ變ヘマシテ、ソレ以外ノモツト民主的ナ、協同組合的ナ事業ノ出來マスルルコトノ方ガ、寧ロ今後ノ農業會ノ運營上正シイノデハナイカ、斯様ニ考ヘルノデゴザイマスルガ、之ニ對シマシテノ農相ノ御意見ヲ伺ヒタ イト思ヒマス

第四點ノ供出ノ問題デアリマスルガ、農業會ノ仕事トシテ、供出ハ今後モ今マデノ通リナラバ大キナ仕事トシテ残リマセウガ、現在ノ供出ハ是非常ニ眞剣ニ考へナケレバナラナイ問題ナノデス、巷ニ餓莩ガ横ハツテ居リマス、此ノ議事堂外ニ於ケル國民ノ食ヲ求メル聲ハ實ニ深刻デアリマス、悲痛デアリマス、然ルニ「インフレーシヨン」ハ益々昂進ノ歩調ヲ高メテ居ル、其ノ場合ニ農産物ノ自由價格ト公定價格トノ開キト云フモノガ餘りニモ大キイ、一升ノ自由價格ノ米ハ一俵ノ公定價格ノ米價ナノデス、一升ト一俵トガ對立スルヤウナ此ノ公定價格ト自由價格ノ開キガアリマス場合ニ、農民ニドンナニ精神主義ヲ以テ供出ヲ要求致シマシテモ、ソレガ生産高ノ四割、五割ノ中ナラバ宜シイガ、六割、七割ヲ占メテ參リマスナラバ、其ノ供出問題ハ極メテ困難デアリマス、而モ一方ニ於テ日本ノ食糧ノ絶對量ガ不足シテ居ルト云フ此ノ二ツノ事實——「インフレ」ノ昂進トソレニ依ル自由價格ト

公定價格ノ開キノ擴大、食糧ノ絕對量
ノ不足、斯ウ云フ問題ヲ併セ考ヘマス
ルナラバ、供出ハ今後ニ於テ非常ニ困
難ニナツテ參ル思ヒマス、之ニ對シ
マシテノ外米ノ輸入ニ付テ、政府當局
ハ熱心ニ努力サレテ居ルヤウデゴザイ
マスルカラ、此ノ上トモ御盡力ヲ戴キ
タイト思ヒマスガ、是等ノ問題ヲ考ヘ
マス時ニ、ウモ一ツ供出ヲ困難ナラシ
メル事實ガアル、唯サヘ以上ノヤウナ
理由デ困難デアル上ニ持ツテ來マシ
テ、政府ト農民トノ間ニ於ケル供出關係
ハ、是ハ一ツノ契約ナノニアリマ
ス、何等ノ強制力ヲ持ツテ居リマセ
ヌ、農民ニ對シテ幾ラノ米ヲ供出セヨ
ト言ハレマスルケレドモ、ソレハ一ツ
ノ契約ナノデス、農民ガ政府ニ賣ルカ
賣ラナイカト云フダケノ問題デアル、
唯買上げテ居ルダケデアル、ソレヲ強
制致ス所ノ力ヲ持ツテ居リマセヌ、農
業會自體モ其ノ強制力ヲ持ツテ居ラナ
イ、強制力ノナイ場合ニ於テ生產高ノ
六割、七割ヲ無理ニ持ツテ行ク、是ガ
昔ノ物納小作料ノ高イモノト、殆ド同
ジヤウナ狀態ニナツテ居リマスガ、茲
ニ大キナル矛盾ガアルノデアリマス、
封建的ナ「イデオロギー」ノ儘ノ農民ナ
ラバ是デモ宜イ、民主主義的ナ方向ニ
總テガ動ク時ニ於テ、農民ガサウ云フ
ヤウナコトヲ果シテジツト辛抱スルデ
マス、斯様ナ意味カラ供出ヲセシメル

爲ニハ、供出ノ土臺ニ於テ合理的ナル
一ツノ基礎ヲ與ヘナケレバナラナイト
思フ、合理的ナ基礎トハ一體何カ、土地
ノ改革ニ依リマシテ、生産者ガ税金ノ
如キ氣持ヲ以テ供出ガ出來得ルヤウナ
状態ニスルカ、ソレトモ安定サレタ健
全農家ノ自主的ナ組合ガ農業經營ヲ管
理シ、生産米ノ供出等ヲ管理ヲシテ行
クト云フヤウナ、健全農家ノ組合管理
ニ依ツテ今後仕事ヲ運ンデ參リマスル
ナラバ、是ハ又現在ノ農事實行組合ノ
ヤウナモノト違ヒマシタ一ツノ自主的
ナモノトシテ動キ出シテ來ルト思ヒヤ
スガ、斯ウ云フコトヲ一ツ私達ハ考ヘ
テ行キタイト思フノデアリマス、サウ
云フヤウナ自主的ナ健全農家ノ組合ノ
經營ニ依ツテ、村ノ土地ガ巧ク運營サ
レテ參リマスナラバ、當然農業會ノ民
主化サレタモノト似タモノガ出テ來
ル、其ノ時ニヨコ初メテ松村農林大臣
ノ言ハレマスル同胞愛ニ依ル供出、其
ノ精神的ナヘ懇モ亦響イテ參ルノデゴ
ザイマスルガ、現在ノヤウナ立場ニ農
民ヲ置キマシテハ、中々供出ハ困難デ
アルト云フコトヲ私ハ考ヘルモノデア
リマス、斯様ナ意味カラ供出ヲモツト
十分ニセシメマスル爲ニハ、今マデノ此
處ニ出サレマシタ提案ノ内容デハ非常
ニ困難デアル、斯ウ考ヘル私ノ意見ニ
付キマシテ、若シソレデナシ得ルト致
出ヲセシムルト云フヨリカ、モウ少シ
進ンデ具體的ナ方針ガオアリニナルト

恩ヒマスガ、ソレニ付テ御示シ戴ケタ
ラ戴キタイト思ヒマスルノト、若シ私
ノ今申シマシタヤウナ方法ガ許サレマ
スルナラバ、サウ云フヤウナ方法ニ依
ツテ、供出ニ合理的基礎ヲ置クベキデ
ハナイカ、斯ウ考ヘルノデアリマスガ、
之ニ對シマシテノ御意見ヲ併セテ伺ヒ
タイト思フノデアリマス

次ニ農業會ガ將來土地ヲ一括買上ヲ
致シテ參ルコトニナリマスルガ、現在
ノヤウナ貧困零細農ノ多イ場合ニ於キ
マシテハ、中々此ノ組合ノ運營モ因難
ダト思ヒマス、今後ノ農業會ノ運營ヲ
地主的ニナラナイヤウニ、本當ノ耕作
農民ニ依ツテ極メテ有畜化サレ、機械化
サレ電化サレタ所ノ近代的ナ、高度
化サレタツノ農業經營、是ガ本當ノ
増產ヲ約束スル所ノ協同組合的ナ經營
ヲ基礎ニ致シマスルナラバ、是コソ素
晴ラシイ増產ガ豫想サレル行キ方デゴ
ザイマス、斯ウ云フヤウナ方向ニ向ケ
テ今後ノ土地ノ一括買上ガ農業會ニ於
テ行ハレテ行クト云フコトヲ、私達ハ
理想トシテ考ヘテ居ルノデアリマスル
ガ、今ノヤウナ行キ方デハ中々ウマク
行カナインデハナイカ、現在ノ儘ノ農
業會、而モ地主的性格ノ強イ農業會ニ
於テハ、是ガ困難ナノデハナイカト云
フコトヲ考ヘルノデアリマス、尙ホソ
レニ併セテ考ヘマスル問題ハ、政府ガ
五箇年、百五十五萬町歩ノ開墾ヲ計畫
致シテ居リマス、ソレニ對シマシテ百
萬戸ノ農業ヲセシメヨウト致シテ居リ

マス、日本ノ零細農ヲ小農、中農へ發展セシメルト云フノデハナクシテ、土地ヲ一層細分化スルト云フコトニナルノデハナイカ、政府ハ當面セル失業問題、復デゴザイマスルガ、日本ノ今日ノ土地問題、農業問題、食糧問題ハ左様ナ應急的ノ問題デハナクシテ、モット根本的ナ考ヘ方ラシナケレバナラナイト思フノデアリマス、斯様ナ意味カラ土地配分ノ問題ガ今後農業會ニ於テ行ハレル、農業會ノ行ヒマスル場合ニ、政府ガ之ヲ指導シテ參りマスル時ニ、今ノ政府ノ考ヘデハ、開墾百五十五萬町歩ニ百萬戸ヲ入レル、而モ疎開者ガ隨分ガ之ヲシテ地主ガ残サレルト云フナラバ、日本ハ依然トシテ零細農業經營が續ケラレルコトニナルト思フノデアリマス、決シテ土地ノ改革、農業ノ改革ノ依然トシテ地主ガ残サレルト云フナラバ、日本ハ依然トシテ零細農業經營が問題ニナリ得ナイト云フコトハ、此ノ開墾ト歸農ノ問題、土地ノ配分ノ方法ニ依ツテ、ソレガドチラヘデモ持ツテ參ラレルト云フコトヲ考ヘルコトガ出来ルノデゴザイマシテ、特ニ土地ノ配分ニ付テヤハリ依然トシテ零細農ヲ承認スルヤウナ御考ヘヲ持ツテ居ルノ

カ、ソレトモ此ノ際大贋ニ小農中農ヘ
日本ノ農業人口ノ配分ヲ考ヘル、斯ウ
云フヤウニ御考ヘニナルノカ、是ハ現
存セル失業問題ト脱ミ合セテ考ヘナケ
レバナラナイ極メテ重大ナル問題デゴ
ザイマセウガ、農林當局ト致シマシテ
ハ大贋ナル方針ヲ、先ヅ茲ニシツカリ
ト持ツテ居ラナケレバナラナイト思ヒ
マスノデ、特ニ之ニ付キマシテノ明快
ナル御答ヘラ願ヒタイト想フノデアリ
マス

トモ農民組合法ノ制定ヲ私ハ急ガナケレバナラナイト思フノデゴザイマスル
ガ、之ニ對シマシテノ農林大臣ノ御意見ヲ伺ヒタイト思フノデアリマス
次ニ水産業團體ノ問題デゴザイマスル
ルガ、極メテ具體的ナ一點ダケヲ御伺
ヒヲ致シタイト思フ、政府ハ本年度ノ
魚獲高ニ於テ十二億貫ノ計畫ヲ發表ニ
ナリマシタ、領域ガ極メテ狹クナツタ、
資材ガ極メテ不足デアル、漁船セモ不足
トナリ、油セモ不足トナリ、「マニラ」駆モ
十分ニナイ、漁網モナイ、「カッチ」モナ
イト云フ此ノ今日ニ於テ、十二億貫ト
云フノハ極メテ冒險的ナ數字デゴザイ
マスルガ、之ヲ御發表ニナツタ時ノ政
府ノ氣持デアル、食糧ガ非常ニ不足シ
テ居ル今日、多クノ數字ヲ御示シニナ
ツタカラト云ツテ國民ハ喜バナイノデ
アリマス、現實ニ魚ガ我々ノ臺所ニ廻
シテ、決シテ喜バナイノデアリマス、斯
ナ意味ニ於キマシテ、政府ハ「ボツダ
ム」宣言受諾以來、日本ノ領海ガ極メ
テ狭クナツテ居ル、或ハ樺太ノ方面ニ
シテ、沿海州ニ於テ、朝鮮ノ近海ニ於
キマシテ、日本ノ最モ有望ナ漁場デゴ
ザイマシタ地方ガ閉鎖サレテ居ル、或
ハ遠洋漁業モ閉鎖サレテ居ル、最近極
ク一部ガ許サレタヤウデゴザイマス
ガ、又或ル話ニ依リマスルト、地先十

二哩以上ヘノ沖合漁業ト云フモノモ、現在ハ不十分ダト云フコトヲ聞イテ居リマスルガ、是等ニ對シマシテ聯合軍司令部ニ對シテ、政府當局ハ我々ノ漁場ガモツト擴大シ、ソレカラ得ル漁獲高ヲ増加サスト云ツタコトニ付キマシテ、ドノ程度ノ御交渉ナリ努力ヲ拂ハレテ居ルノカ、是ハ十二億貫ノ發表ガアリマシタノ付キマシテ、ソレヲ裏付ケ致シマスル爲ニ特ニ御示シヲ戴キタイト思フノデアリマス、更ニソレト又併セ考ヘマスル問題ハ、日本ノ魚撈ニ於キマシテノ資材ノ不足、今モ御話ガゴザイマシタガ、魚網ノ問題、「ローブ」ノ問題、油、「ゴム」合羽、「ゴム」手袋、「ゴム」靴等ニ付キマシテノ「ゴム」、斯ウ云フモノノ入手ニ付キマシテ、或ハ米綱ヲ持ツテ來テ魚網ヲ造ルコトモ宜イデセウ、南カラ「ゴム」ヲ入レルコトモ宜イデセウ、或ハ「マニラ」麻ヲ持ツテ來ルコトモ宜イデセウ、或ハ「カゴ」ヲ持ツテ來ルコトモ出ルコトセウ、油ノ如キモ其ノ通リデアル、是等ニ付テドノ程度ノ御盡力ガ拂ハレテ居ルカ、單ニ資材ガナイ、漁船ガ十分得不到ナイト云フコトデハ、中々増産ハアリ民ノ臺所ニ持ツテ來ルカドウカト云フナ事實ナリ、御考ヘテ承ルコトガ出來

○國務大臣(松村謙三君) 御答へヲ致
シマス、何故農地調整法及ビ此ノ法案
デ地主ヲ一應抑制シナカツタカ、一口
デ言へバサウ云フヤウナ御尋ネテゴザ
策ヲ立テマスニ付キマシテハ、地主デ
アリマストカ、小作デアルトカ、其ノ
一方ノ側ニ立ツテ一方ヲ見ルト云フヤ
ウナ態度ヲ執ツテヤツタノデハゴザイ
マセヌ、小作農ニ燃エル熱意ハ、ドウ
カシテ自分デ土地ヲ持ツテヤリタイ、
斯ウ云フ熱意ガ增産ニモナリ、農村ノ
安定ニモナリマスノデ、農地調整法ノ
改正案ヲ出シテ土地問題ヲ解決シヨ
ウ、今之ヲ解決シナクチヤナラスト心
得タノデゴザイマスガ、其ノ一方ノ側
ニ立ツテ考ヘタノデハゴザイマセヌ、
今後ニ於キマシテハ、大體計畫通りニ
自作農ガ出来マスト、從來ノ地主ト云
フモノノ觀念ト、今後ノ地主ト云フモ
ノガ農村ニ持ツ位置ハ非常ニ遠ヒマ
ス、殊ニ金納制トモナリマスナラバ、
是ハ若シモ地主ト云フモノニ其ノヤウ
ナ非常ニ小作者ト相容レヌモノガアル
ト——是マデハアリマシテモ、今後ア
レダケノ自作農ガ出来マスナラバ、是
ハ事情ハ大イニ變ツテ參ルノデアリマ
シテ、今後土地ノ兼併ハ許サレナイコ
トデアリマスカラ、農村ノ模様ハ變ツ
テ參ルト思フノデアリマス、隨ヒマシ
上ヲ以テ私ノ質問ハ終リマス(拍手)
〔松村國務大臣登壇〕

テ私ハ一ツニハ農地調整法ニ於ケルア
ノーツノ土地制度ノ改革ヲナシ、一面
ニハ農業會ヲシテ全ク民主的ノモノタ
ラシメタナラバ、農村ノ健全ナル育成
ハ之ニ依ツテナシ得ルモノト確信ヲ致
シテ居ルモノデゴザイマス

尙ホ供出ニ付キマシテ、農業組合ニ
依ツテヤラセト云フ御話デゴザイマ
ス、之ニ對スル御考ヘ方ハ私ハ一ツノ
方法デアルト考ヘマス、此ノ是非ニ付
テハ私ハ此處ニ申上ゲマセヌ、併シナ
ガラ多年農村ニハ產業組合以來農業會
ガゴザイマシテ、之ニズット系統的ニ
結付イテ居ツテ、ソレガ官僚的デアレバ
今日ノヤウニ行キマセナンダケレド
モ、之ヲ農民ノ手ニ返シタナラバ、是
ガ直グ今御話ノ通り、殊ニ善用サヘス
レバ役立ツ譯デゴザイマス、隨ヒマシ
テ今日農業組合ト云フモノヲ今新タニ
作リマシテモ、ソレガ農業會ノヤウナ
系統的ナ發達ヲ自주의ニ致シマスノニ
ハ何年掛ルカ、農業會ノ如キハ明治三
十年頃カラノ發達ニ依ル譯デアリマシ
テ、今年ノ此ノ供出ノ間ニハ本當ニ合
ヒマセヌ、隨ヒマシテ私ハ此ノ供出ハ
農家ニ是レダケノ改革ヲシテ、其ノ安
心ノ上ニ、同胞愛ニ懇ヘテ供出ヲシテ
テ置キハセヌダラウト考ヘテ居ルノ
デゴザイマシテ、此ノ點ニ依ツテドウ
カ今年ハ満足ナ——凶作ノ年デアリマ
スカラ昨年ノヤウナ額ニハ達シマセヌ

ケレドモ、豫定セラレタ供出ヲ得タ
イト念願ヲ致シ、國民ト共ニ之ニ努力
ヲ致シタイト思フノデアリマス
ソレカラ農業經營ノ電化其ノ方
法ニ依ツテ高度ニヤルト云フ御話ニ付
キマシテハ、私ハ全然同感デゴザイマ
シテ、是レアルニアラザレバ、到底澤
山ノ人口ヲ農村ニ吸收スルコトハ出來
得ナイト思フノデゴザイマス、私ハ零
細農ヲ作ルト云フコトハ、是ハ非常ニ
御話通りニ社會的ニ見マシテモ、生產
面カラ見マシテモ、宜シクナインノデア
リマシテ、之ヲ出來ルダケ中農程度ニ
維持致シタイト思ヒマス、今度ノ此ノ
農地ノ制度ガ改マツタ後ニハ、出來ル
ダケ零細農ヲ中農程度ニ引上げネバナ
ラスト思ヒマスガ、此ノ狹隘ナ土地ニ
於キマシテハ、今後中々サウ云フ譯ニ
ハ參ラナイ、ソコデ此ノ高度ノ立體的
農業ト申シマスカ、農村ノ電化其ノ他
ノ方法ニ依ツテヤツテ行カザルヲ得ナ
イト思ヒマス、開拓地ニ百萬戸ノ戸數
ヲ入レマスコトハ、是ハ非常ニ困難ナ
コトデアリマス、アレ位ノ面積デ以テ
百萬戸數ヲ入レルト云フコトハ、ソ
レデ獨立シタ農業經營ト云フコトハ、
非常ニ困難デアリマスガ、是ハ偏ヘニ
ヤハリ御話ノ農村工業及ビ高度ノ電化
其ノ他ノ施設ト相俟シテ、初メテ是ダ
ケノ人口ガ収容セラル、譯デゴザイマ
シテ、斯ウ云フ意味ニ於テ御話ノヤウ
ナ經營方法ヲ執ラナクチヤナラナイノ
デアラウト思ヒマス

ソレカラ水產ニ關スル御話デゴザイ
マス、之ニ付キマシテハ十二億デシタ
カ十三億デシタカト云フ、此ノ豫定數
量ハ果シテヤレルカヤレスカ、斯ウ云
フ御話デゴザイマス、是ハ非常ニ困難
ダトハ思ヒマスガ、併シナガラ終戰當
時ヨリ見マスト、漁業ノ狀態ガ相當ニ
變ツテ參ツテ居リマス、例ヘバ漁船モ
戰時中ニ多ク失ハレマシタガ、ソレガ
或ハ聯合國ノ好意ニ依リマシテ漁船ノ
急速ナル建造ガ許サレマシテ、漁船ノ
面カラ見タ狀態ハ日ニ改良セラレテ來
テ居ルト云フ譯デゴザイマス、又漁網
ノ問題モ、是レ亦聯合國側カラ還付セ
ラレマシタアノ資料ノ中ニモ或ル程度
ノモノガアリ、又民間ニモ資料ガアリ
マスノデ、漁網ノ製作ハ、是ハ十分ト
ハ言ヘマセヌケレドモ、或ル程度ノモ
ノガ築エテ參ツテ居リマス、ソレカラ
油ニ付キマシテモ、是モ聯合國側ノ心
配モアリマシテ、生產ニ必要ナ、ズツ
ト續ヒテノ分量ト言ヘバ今後ノコトデ
ゴザイマスガ、今日相當漁獲ニ出掛ケ
ルダケノモノニ對シテハ、十分デハア
リマセヌガ漸次用意ガ出來テ居ル、斯
ウ云フ狀態デアリマジテ、御尋ネノ漁
場ノ狹隘ノ問題ニ付キマシテモ、色々
要請モ致シ、現ニ既ニ新聞デ御承知ノ
通リ東海方面ニ——南方ト云フ所マデ
ハ行キマセヌガ、漁區ヲ限ツテノ捕鯨
漁場モ認メラレテ來テ居ルト云フヤウ

ナ狀態デゴザイマシテ、本當ニ業者ノ
努力、政府ノ施設ヲ得マスナラバ、私
カ十三億デシタカト云フ、此ノ豫定數
ハ來年度ニ於テ十二、三億ノ漁獲ヲ得
テ、ソシテ今日主要食糧ハ少ノイデス
ケレドモ、魚類ニ依ツテ其ノ主要食糧
ノ補ヒヲスルト云フコトガ、最モヤリ
得ル方法デナイカト存ジテ、十二億萬
貫ト云フ大キナ數字ヲ日安ニシテ努力
ヲ致シテ居ル次第デゴザイマス

○前川正一君 簡單デスカラ自席カラ
御許シヨ願ヒマス

○議長(島田俊雄君) 許可致シマス

○前川正一君 私ノ御尋ニ對シマシ
テ御答辯ノナカツタ點ガアルノデアリ
マス、一ツハ農業會ノ指導統制ノ方面
ノ仕事ハ、是ハ現在ノ農業會ニ任スヨ
リカ、寧ロ新シク民主主義化サレルベ
キ町村ノ方面ニ、而モソレハ行政的ニ
指導シ、上カラ連絡ヲ持ツテ居リマス
タル組織ハヤラスベキデハナ
イカ、言換ヘルナラ舊農會的ナ仕事
コトト思ヒマシテ、其ノ意味ニ於キ
シテハ願ハクハ——殆ド此ノ農地法ニ
ノ改正ニ於キマシテハ、是非トモ農民
ノ自主的ナ組合ガ必要デアル、カルガ
故ニ我々ハ此ノ法案ト並行シテ農民組
合法ノ制定ヲヤラナケレバ、農村ハ安
當ナル、茲行セル、丈夫ナル動キヲ以
テ今ノ時代ニ進ンデ行クコトガ出來ナ
イト思フガ、農民組合法ノ制定ニ對ス
ル意思アリヤ否ヤ、此ノ二點ニ付キマ
シテノ御答辯ガナカツタト思フノデア
リマス、改メテ要求致シマス

○國務大臣(松村謙三君) 沢レマシ
タ點ニ付御答ヘテ致シマス、第一ノ
御話デゴザイマス、是ハヤハ
ノ補ヒヲスルト云フコトガ、最モヤリ
得ル方法デナイカト存ジテ、十二億萬
貫ト云フ大キナ數字ヲ日安ニシテ努力
ヲ致シテ居ル次第デゴザイマス

○國務大臣(松村謙三君) 是ニテ質疑ハ終
了致シマシタ、各案ノ審査ヲ付託スペ
キ委員ノ選舉ニ付テ御詔り致シマス

○議長(島田俊雄君) 來ルデアラウト自分ハ考ヘテ居ル譯デ
ス時ニ、其ノヤウナ理想的ナモノガ出
結付イテ渾然一ツナツテ行ク方ガ、
指導方面モ實際的デアリ、效果ガ擧ル
リ經濟面ヲ受持ツ産業組合ト、ソレト
結合付イテ渾然一ツナツテ行ク方ガ、
指導ノ面モ實際的デアリ、效果ガ擧ル
ト思フノデゴザイマシテ、之ヲ自治體
ニ任セテ行クト云フコトハ、是ハ指導
ノ分裂ノ虞モアリマスノデ、ヤハリ經
濟面ト指導面トヲ、兩方一ツニシタ方
ガ宜シイト考ヘテ居ルノデゴザイマス
ソレカラ農業會ト並行シテ農民組合
ヲ作ルト云フ考ヘ方デゴザイマスガ、
ノ農民組合ト云フモノガ地主ヲ對照トシ
タル組合アリマスルナラバ、是ハ以
前カラ言ハルコトデアリマシテ、別
デゴザイマスケレドモ、私ハ地主ヲ對
象トシ、又一方ヲ對象トシタル姿ヲ農
村ニ殘スト云フコトハ甚ダ面白カラヌ
コトト思ヒマシテ、其ノ意味ニ於キ
シテハ願ハクハ——殆ド此ノ農地法ニ
ノ改正ニ於キマシテハ、是非トモ農民
ノ自主的ナ組合ガ必要デアル、カルガ
故ニ我々ハ此ノ法案ト並行シテ農民組
合法ノ制定ヲヤラナケレバ、農村ハ安
當ナル、茲行セル、丈夫ナル動キヲ以
テ今ノ時代ニ進ンデ行クコトガ出來ナ
イト思フガ、農民組合法ノ制定ニ對ス
ル意思アリヤ否ヤ、此ノ二點ニ付キマ
シテノ御答辯ガナカツタト思フノデア
リマス、改メテ要求致シマス

○長野高一君 兩案ヲ一括シテ議長指
名ニ七十名ノ委員ニ付託セラレシコト
ヲ望ミマス

○議長(島田俊雄君) 長野君ノ動議ニ
御異議アリマセヌカ

○議長(島田俊雄君) 長野君ノ動議ニ
御異議ナシト呼ブ者アリ

○議長(島田俊雄君) 御異議ナシト認
メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシ
タ——日程第一、戰時森林資源造成法中
改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス——

紅露政務次官

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔政府委員紅露昭君登壇〕

○政府委員(紅露昭君) 只今議題トナ
リマシタ戰時森林資源造成法中改正法
律案ノ提案理由ヲ御説明申上ダマス、
本法ハ第八十六帝國議會ニ於テ成立シ
タル衆議院議員提出ノ法律アリマシ
テ、施行直前終戰ノ事態ニ立至ツタ
モノデアリマス、本法ハ戰爭中森林ノ
伐採ヲ強行致シテ参リマシタガ、伐採
跡地ノ造林ハ是非トモ之ヲ實行シテ參
ラナケレバナリマセヌガ、勞務其ノ他
ノ事情ニ依リマシテ、速急ニハ造林ヲ
實行スルコトガ出來マセヌ關係等ヲ考
慮致シマシテ、立木ノ處分ヲナシタル
森林所有者ヲシテ、其ノ收入ノ中カラ
造林費用ノ半額ヲ農林中央金庫ニ提供
シテ證券ノ交付ヲ受ケシメ、勞務種苗
等ノ都合ノ付キ次第造林ヲ實行サセマ
シテ、政府が費用ノ半額ヲ補給シ、造
林ヲ獎勵シテ參ルト云フ制度アリマ
シテ、證券交付總額ハ額面三億圓、之
ニ依ル造林豫定面積ハ九十餘萬町歩ト

達シマセヌケレドモ、是ハ此ノ農地調
査ノ結果ニ於キマシテハ、是非トモ農民
ノ自主的ナ組合ガ必要デアル、カルガ
故ニ我々ハ此ノ法案ト並行シテ農民組
合法ノ制定ヲヤラナケレバ、農村ハ安
當ナル、茲行セル、丈夫ナル動キヲ以
テ今ノ時代ニ進ンデ行クコトガ出來ナ
イト思フガ、農民組合法ノ制定ニ對ス
ル意思アリヤ否ヤ、此ノ二點ニ付キマ
シテノ御答辯ガナカツタト思フノデア
リマス、改メテ要求致シマス

第一條中「大東亞戰爭ニ際シ森林資
源ノ戰力化ノ徹底及之ガ造成ノ確保
ヲ期スル爲」ヲ「森林資源造成ノ確保
ヲ期スル爲」ニ改ム

第七條中「證券ノ交付アリタル後」
ヲ「前項ノ場合ヲ除クノ外證券ノ交
付アリタル後」ニ改メ同條ニ第一項
付テ左ノ一項ヲ加フ

第五條第一項ノ規定ニ依ル命令ヲ
リタル後當該森林ニ付命令ニ係ル
造林行爲ノ完了前新ニ森林所有者
ト爲リタル者ハ證券ノ交付ヲ受ケ
タル森林所有者ノ權利義務ヲ承繼
スルモノトス

附 則

〔政府委員紅露昭君登壇〕

○政府委員(紅露昭君) 只今議題トナ
リマシタ戰時森林資源造成法中改正法
律案ノ提案理由ヲ御説明申上ダマス、
本法ハ第八十六帝國議會ニ於テ成立シ
タル衆議院議員提出ノ法律アリマシ
テ、施行直前終戰ノ事態ニ立至ツタ
モノデアリマス、本法ハ戰爭中森林ノ
伐採ヲ強行致シテ参リマシタガ、伐採
跡地ノ造林ハ是非トモ之ヲ實行シテ參
ラナケレバナリマセヌガ、勞務其ノ他
ノ事情ニ依リマシテ、速急ニハ造林ヲ
實行スルコトガ出來マセヌ關係等ヲ考
慮致シマシテ、立木ノ處分ヲナシタル
森林所有者ヲシテ、其ノ收入ノ中カラ
造林費用ノ半額ヲ農林中央金庫ニ提供
シテ證券ノ交付ヲ受ケシメ、勞務種苗
等ノ都合ノ付キ次第造林ヲ實行サセマ
シテ、政府が費用ノ半額ヲ補給シ、造
林ヲ獎勵シテ參ルト云フ制度アリマ
シテ、證券交付總額ハ額面三億圓、之
ニ依ル造林豫定面積ハ九十餘萬町歩ト

云フコトニ相成ツテ居ルノデアリ
斯様ニ本法ハ戰時立法デハアリマス
ルガ、終戰後ニ於キマシテモ、御承知
ノ通り戰災復興等、木材ノ需要ハ益々
増加シツ、アリマスルガ、樺太ノ大資
源ヲ失ヒ、且ツハ外國ヨリ木材及ビ
「バルブ」ノ輸入ヲ仰グコトモ容易ナラ
ザル今日、森林ノ伐採ハ戰時中ト同様
ニ、之ヲ强行セザルヲ得ナイ状態ニア
リマスル所、殊ニ近年水害ガ愈々増加
シ、本年ハ又未會有ノ大水害ヲ見タヤ
ウナ事情ニアリマスルノニ鑑ミマスル
時、終戰後ニ於キマシテモ本法ノ必要
ハ愈々増加致シテ居ル次第アリマ
ス、仍リマシテ茲ニ本法ニ若干ノ改正
ヲ致シマシテ、終戰後ノ林業界ノ非常
事態ニ對處シ、治山治水ニ遺憾ナキヲ
期シタイト存ジマス、是レ本法ヲ提出
スル所以デアリマス、何卒御審議ノ上
御協賛アランコトヲ冀フ次第ゴザイ
マス

〔議長退席、副議長著席〕

○副議長(勝田永吉君) 質疑ノ通告ガ
アリマス、之ヲ許シマス——馬岡次郎
君

〔馬岡次郎君登壇〕

化及ビ國策ノ發表ニ關シ首相ノ御方針ヲ承リタイ、第二、戰時森林資源造成法ノ活用及ビ勞務ノ配分ニ付テ、農林大臣及ビ厚生大臣ノ御方針ヲ承リタイ、第三、薪炭行政ニ關シ農林大臣ノ御方針ヲ承リタイ、第四、木材統制ノ存廢ニ付テ農林大臣ノ御方針ヲ承リタイ、以上四項目ニ付テ聊カ卑見ヲ加ヘテ御尋ネ申シタイト存ジマス
其ノ一、主管事務ノ元化及び國策ノ發表ニ付テ二ツノ點ヲ御伺ヒ致シマス、今日マデ度々問題トサレテ居ル林業行政ト、治山、治水問題ノ主管省ノ元化ノ問題デアリマス、是ハ今更申上ゲルマデモナク、北海道ニ於ケル林業行政ノ全般ハ北海道長官ニ、又本土ニ於ケル治山治水ハ内務省ニ、他ノ林業行政ハ農林省ニアルト云フガ如キ實情デ、只今上程サレテ居ル此ノ森林資源造成ノ如キ問題ハ、其ノ事業施行ノ際、當局ノ見解、熱意、手續等ニ關シ、其ノ意見ヲ異ニシ、實ニ言語ニ絶スル支障ガ突發致シ勝チデ、施業者ノ不便、迷惑モ甚ダシイモノガアルノデアリマス、爲ニ兎角森林資源ノ涵養、國土保安ノ施設ガ後レ勝チデ、今年ノ如ク無理ニ増伐セナケレバナラナカツタ、又茲數年間ハ此ノ増伐ガ繼續スルデアラウコトヲ豫期セラル、林材ノ將來ヲ考ヘマスル時、實ニ寒心ニ堪ヘザルモノガアルノデアリマス、此ノ儘デ行ケバ必ズヤ一定時ヲ經過シ、當時、蓄積材ノ枯渴ヲ來シ、河川ハ氾濫

シ、到底收拾スペカラザル事態が發生スルヤヲ憂フルモノデアリマス、殊ニ我が國ノ如キ、周期的大出水ヲ毎年秋於テ被リタル被害ハ實ニ甚大デアリマス、森林ヲ濫伐ノ結果、之ニ伴ハザレ額タルヤ實ニ厖大ナル驚クニ絶エタルモノデアリマス、宜シク此ノ際此ノ主管事務ヲ統一元化シテ、積極的ニ此種事業ヲ計畫セラル、御考ヘナキヤ如何、之ヲ御尋ネスルノデアリマスシマニテハ、其ノ都度情報局又ハ主管省ニ於テ發表セラレテ居ツタヤウニ掛ヒマスガ、目下ハ左様デナイヤウニハレマス、情報局又ハ主管省ニ於テ發表セラレテ居ル爲メ、國民ハ其ノ掛ヒモノデモ、他ノ方面カラドシトニ期待シ、喜ンデ居ルト、案外其ノ實施ニ手間取ツタリ、甚ダシキハ其ノ内容が似テ非ナル場合等ガアツテ、喜ブドコロカ却テ迷惑ヲ感ズル場合がアルノデアリマス、調査研究モ結構アガ、斯クテハ折角ノ政府ノ施策モ實施ニ際シ、國民ハ先刻拜承シテ居リマスガ、又變ツタノカ、是デハ政府ノ言フ事策ニ對シテモ非常ニ期待薄ノ感じが眞ガ如キ效果アリヤ、或ハ其ノ内ニ又復内容が變ルノデハナイカト、何レノ施策ニ對シテモ非常ニ期待薄ノ感ジガ眞ク、不信ノ觀念ガ相當ニ浸透サレテ居

ル實情アリマス、甚ダシキハ又復
詰マレバ變更スルカ、自然價格ノ改
ガ行ハレルダラウト、自然力故意カ、
生産供出ヲ遅ラセテ、値上ヲ待ツ者
ラ續出シテ居ルコトヲ如何ニ御覽ニ
ツテ居ルカ、今回ノ敗戦ノ原因モ、其
ノ一つハ軍需生産方面ニ於ケル月末未
產ガ用兵作戰ヲ誤ラシメ、汽車、電
ノ混雜ヲ敢テシタコトヲ深ク御留意
ヒタインゾアリマス、宜シク國策ノ改
表ハ一元化シ、其ノ發表ト同時ニ施
ヲ實施シ、徒ラニ國民ノ不安及ビ爲
スル策謀ヲ根絶シテ戴キタイト思ヒ
ス、最近ノ事例ヲ申シ上ゲマスナ
バ、十一月二十五日カラ木材統制ノ
ヲ解クカラ、木材ハ直チニ出廻リ、
ニ戰災復舊ガ出來ルカノヤウニ、小姑
國務相ノ車中談ガ、十一月ノ二十一、
二日頃新聞紙上ニ發表サレマシタ
ニ、住ムニ家ナク寒サニ凍エル戰災
ノ喜ビハ言フモ更ナリデアリマス、
面木材生産ニ從事シテ居ル者ガ、二十
五日カラ勝手ニ木材ノ生産及び製材
ガ出來、自由放奔ニ賣買ガ出來ルカ、
如クニ考ヘ、伐倒、搬出、製材ト寸切
ヲ爭フ時ニ、勝手ニ仕事ヲ捨テテ將
ノ希望ニ浮カサレ、其ノ眞疑ヲ質シ、
事業計畫ヲ立テントシテ飛廻リ、是が
爲メ一時木材生産ガ休止狀態トナツ
コトヲ當局ハ御存ジナイデセウカ、土
材統制ノ梓ハ果シテ取放シデアルカ、
農林當局ノ意見ト小林國務相ノ車中談
トニ若干ノ食違ヒガアリ、是ガ爲メ次
第

業者ハ其ノ何レガ是カ判断ニ苦シソダス
コトハ見逃セナイ實情デアリマス、宜
シク是等ハ決走シタ責任アル所管官廳
ヨリノ發表マデハ、政府筋カラノ發表
ガナイヤウニ願ヒタイ、此ノ點首相ハ
如何ニ御考ヘニナツテ居ルカ、御尋不
致シタノデアリマス

第二、戰時森林資源造成法案ノ活用
ニ付テ御伺ヒ致シタイ、此ノ法案ノ成
立シテ以來、最早ヤ一作業年度モ殆ド
終了セント致シテ居リマスル時、本法
案ハ發布サレナガラ、其ノ運用上施行
規則ノ發表ヲ見ナカツタノハ何等價値
ガナインデハアリマセヌカ、異多クモ御
裁可ヲ仰ヒテ發布致シナガラ、施行規
則ノ發布ヲ見ザルハ何故デアリマス
カ、政府ノ怠慢カ、將タ熟意ガ缺ケテモ
居ルアカ、此ノ點承リタノデアリマス
、又此ノ法律ヲ正面ヨリ考察致シマ
スレバ、實ニ早天ニ雲霓ヲ望ムトデモ
言フカ、業者ハ渴仰措ク能ハザル所ガ
アルモ、是ガ實施ノ上カラ一步深ク考
察致シマスルナラバ、遺憾ナガラ畫餅
ニ屬シ、是ガ活用力ニ乏シク、心動ク
モ手足ノ動カザルヲ如何ニセンヤデア
リマス、唯呆然、勞力資材難ノ爲メ、
徒ラニ看過サル、狀態デアリマセヌ
カ、最近失業者巷ニ滿チ、餓死スル者
スラアリトノ聲ガ喧シキモ、一步農山
村ニ入りマスナラバ、未ダ勞力不足
ニ泣キ、偶々復員者アリトスルモ、
殆ド其ノ大部分ハ勞働ニ從事スルコ
トヲ厭ヒ、其ノ上農山村ニハ戰爭義
談・木タカ・來刻ノ業者一十林今
軍生兵・顧被策・三マ二

性者ガ續出シテ、戰前ノ勞力ヲ回復スルニハ、今後相當年次ヲ要スルコキ、木材ノ生産、薪炭ノ生産等其ノ悉クガ皆然リデアリマス、就中植林作業ニ至リマシテハ、著手スラ困難デアリマシテ、伐採跡地ノ荒廢ニ任スルモノ三百數十萬町歩ニ達シ、偶々辛ウジテ植栽ナシ得タリトスルモ、其ノ後ノ手入レニ至リマシテハ少シモ行届イテ居リマセヌ、徒ラニ藤葛ノ繁茂スルニ任せツ、アル幼齡林ノ年々增加スル實狀デハアリマセヌカ、是ハ何ニ起因スルノデアリマセヌ、政土保安、治山治水、林材蓄積、資源造成ノ上カラ、大ナル努力ト熱意ヲ以テ本法ノ活用ヲ期セネバナリマセヌ、政府ハ一町歩當リ數百圓位ノ金デ、能ク植林ガナシ得ルト御考ヘニナツテ居リマスカ、闇ノ米五、六升ニモ足リナイ金額デ、苗木代、運搬費、植栽人夫賃ノ公定額ノ支拂ヒスラシ得ルト考ヘテ居ラレマセウカ、況シテ事實ハ公定價ニ數倍スル實費ヲ要スルニ於テ、ナシタクモナシ得ザル狀態ヲ能ク考察サレタイノデアリマス、元來我ガ國ノ獎勵國策ハ、形ノ上デハ實ニ間然スル所ナク羅列サレテ居リマスガ、其ノ效果至ツテ少ク、全ク形式ノミニ因ハレテ、折角ノ國帑支出モ殆ド無爲ニ消費サレテ居ル實情デハアリマセヌカ、イ

ガ當然ダト思ヒマス、本法案ノ如キニ植
栽實費ノ半額ヲ助成セラル、ヤウ改正
セザレバ、折角稀ニ見ル必緊ノ法案
施策モ、霞ヲ隔テ、月光ヲ望ムガ如キ
憾ミナキ能ハズ、宜シク實行活用性ニ
富ムヤウ改正セラル、御意志ガアルカ
否カヲ伺ヒタイノデアリマス、或ハ當
局ハ實際支出ノ認定ハ、事實上不可能
ナリト言ハル、カモ分リマセヌ、此ノ
點ハ農林當局ニ於テ年々施行セラレツ
ツアル官行作業ニ依ツテ、自ラ其ノ實
費算定ノ基礎モ出來テ居ル管テアリマ
ス、之ヲ利用サレバ最モ簡単デ、其
ノ上信用シ得ラル、經費ガ算出セラル
ルデハアリマセヌカ、又今日官行作業
ハ一町歩何ボデ完成サレテ居ルカ、豫
算ハナク、作業ハ闇賃金デナクバ人夫
ヲ得ラレナイ爲ニ、夥人夫ヲ筆ノ先デ
製造サレタリ、苗木ヲ捨テタリ、面積
ヲ勝手ニ縮小サレテ居ツテモ、官行作
業ハ豫算ノ金額デハ完成サレテ居ルト
ハ思ヘナイ、寸時モ早ク是等ノ缺點ヲ
規則ガ未發布ノ折柄、十分是等ノ點ヲ
織込マル、ヤウ切望スル次第アリマ
ス、此ノ點ヲ能ク御意見ヲ承リタイト
思ヒマス

シ、其ノ原因ニ付テハ、先日來同僚各
位カラ論議サレタ所デアリマスガ、普
通ノ失業ト異リ、闇デ闇ヲ食ヒ合ツテ
居ル失業デ、古來カラ働く力ナケレバ食
ヘナイ、食ハンガ爲ニ働くト言ハレテ
居リマシタコトガ、今日デハ眞面目ニ
働く事居ツテハ食ヘナイカラ、働くナ
イデ闇ヲヤツテ食ツテ行クトカ、サモナ
ケレバ人ノモノヲ狙フカト云フ有様
デ、復員者ノ多クハ眞面目ナ仕事ニ從
事シテ居ラナイ事實ヲ如何ニ御考ヘニ
ナツテ居ラル、カ、各人自ラ企業ヲシ
ヨウニ資材、工場、店舗ガナイ、一
定額ノ收入デハ事實上生活ナシ能ハザ
ル實情ヲ如何ニ見テ居ラル、カ、殊ニ
羹ニ懲リテ膾ヲ吹クトデモ申シマセウ
カ、失敗セル統制ヲ改良セントセズ、
一足飛ビニ自由放任セル結果、經濟ノ
自然現象ト致シマシテ、生活必需物資
ニ限ツテ、日ニ増シ暴騰スル折柄、一
定額收入者ノ生計ハ實ニ惨メデアルコ
トヲ如何ニ御慮ニナツテ居リマスカ、
斯クテ一定ノ勞働ニ從事スル者ガ增加
サル、ト御考ヘニナツテ居ラル、ヤ否
ヤ、此ノ儘今少シ放任セバ實ニ由々シキ
社會問題ガ惹起スルノミナラズ、何事が
勃發スルヤモ測リ知レナイ不安ニ、國
民ガ脅エテ居ルコトヲ能ク能ク御考察
サレ、此ノ失業者及ビ闇「ローカー」
ヲ勞力不足方面ニ移入シ、同時ニ一定
額收入者ノ收入ト、實際生活費トノ公

御考ヘニナラナイ限り、木材ヤ薪炭ハ
出廻リマセヌコトヲ申上ゲテ置キマ
ス、此ノ點如何ニ御考ヘニナツテ居ラ
レマスルカ、厚生大臣ノ御見解ヲ承
タインノデアリマス

其ノ三、薪炭行政ニ關シ御伺ヒ致シタ
イ、寒サハ日ニ加ハリマス、曖ヲ採ル
ニ火ノ氣ノナイ戰災者ハ如何ニシテ冬
越シガ出來マセウカ、全國ヲ通ジテ百
有餘ノ戰災都市ニハ、住ムニ家ナク、
未ダ穀生活ヲナシツ、アル者スラ相當
ニアリマス、是等ノ人々對シ適量ノ
薪炭ヲ配給シ得ラル、御手配ガ出來テ
居ルノデセウカ、瓦斯ナク、電熱ナ
ク、戸ボソラ漏ル、夜風身ニ沁ミ、寒
サニ凍エントスル罹災民ヲ眼前ニシ
テ、此ノ手當ガ完全ニ行ハレタト言ヒ
得ラル、ヤ、薪炭ノ生產ニ關シテハ、
餘リニモ政府當局ハ無關心、無施策デ
ハアリマセヌカ、罹災以來相當ノ日數
ヲ經過シタ今日ニ於テ何等カノ手モ打
タレマシタカ、唯憚カニ若干ノ値上
ト、生産者ニ對シ少量ノ物資ノ特配ノ
ミデハアリマセヌカ、其ノ物資モ掛聲
ノミニモノスラアルデハアリマセヌ
カ、其ノ他何等ノ手モ打タレナインデハ
アリマセヌカ、最近又モヤ規格ノ改正
正デハアリマセヌカ、其ノ上當局ノ考
ヘ方ノ不思議ナコトハ、支那事變以來
物資増產ニ餘儀ナクサレ、種々ノ矛盾
ヲ押シテ色々ト施策サレマシタガ、遂

ニ一時的生産増加ヲ圖ル上カラ、已ムナ
ク質ヨリ量ト云フコトデ、遮ニ無ニ突
進サレタ結果ト致シマシテ、最低ノ規
格デ最高價ニ賣ルコトナリ、統制ノ
缺陷ヲ如實ニ暴露シ、粗悪品ノ出荷ト
ナツタデハアリマセヌカ、ソレスラ出
澁レバ時機モ考ヘズニ値上シタ結果、
供出セナイデ遅ラセタ不心得者ガ惠マ
レ、眞面目日ナ生産者ガ惠マレナイト云
フ實情デハアリマセヌカ、斯カル實際
上ノ種々ノ點ガ綜合サレテ、是ガ敗戦
ノ一原因トモナツタノデアルト信ジマ
ス、其ノ中ニモ木炭ニ限ツテハ自ラ好
ンデ此ノ矛盾ヲ敢テシ、検査規則ノ簡
易化、品種銘柄、等級制ノ撤廃等、凡ニ
ル改惡ヲ行ツテ、一本値トサレタ如
キ、他役所デ素人ガ定メタノナラバイ
ザ知ラズ、専門ノ農林省薪炭課ノ人々
ハ、何ヲ考ヘテ居ルカ疑ハザルヲ得ナ
イノデアリマセス、最近少々舊ニ復セラ
レマシタガ、是トテ何ノ改善ニモナツ
テ居ラナイガ、實ニ不思議ト言ハズシ
テ何デアリマセウ、他ノ物資ハ姑ク措
キマス、薪炭ニ限ツテハ、陳列シテ見
テ居ルモノノデモ、食べるモノノデモアリ
マセヌ、之ヲ熱化スル以外ニ用途ノ無
イコトハ申スマデモアリマセヌ、此ノ
熱量ヲ必要トスル物ニ對シ、品種銘
柄、等級制ヲ廢シテ、櫻炭モ、櫻灰
モ、栗ヤ杉、檜、松等ノ粗悪炭モ同様
ト思ツテ居ルノデアリマセウカ、我々
ガ今日親シシニ居ル木炭ハ、木炭ニ似

テ非ナル木頭炭ニモ等シイ燃ルカ又ハ
戦質ノ火持ノ悪イモノバカリデハアリ
マセヌカ、是デハ如何ニ増産サレテモ
實用的ニハ惠マレナコトハ明瞭デ
ス、完全ニ焼成サレマシタ礁炭ニ依
ハ、雜駁數俵ニ匹敵サル、コトヲ御承
知ナイデセウカ、薪炭ニ限ツテハ如何
ニ辯解サレテモ「カロリー」ガ必要デ、
「カロリー」ノ低イモノガ如何程増産サ
レテモ、量ガ數倍トナツテモ、質ガ惡
ケレバ其ノ實用上ノ效果ハ増産ニハナ
ラヌデハアリマセヌカ、從前木炭ノ改
良ヲ喧シク言ハレマシタ當時ハ、燒成
度ノ如何ハ其ノ「カロリー」ニ及ボスコ
トヲ、隨分細カイ成績表デ調査指導サ
レタ當局ノ人々ガ、平氣デ手ノ裏ヲ返
スガ如ク、質ヨリ量ダト呼ビ掛ケラレ
テモ、製炭夫ハ動クモノデハアリマセ
ヌ、今一步讓リマシテ、此ノ粗重炭ガ
果シテ增産サレタデアリマモウカ、事
實ハ豫期ニ反シテ年々減產ニ次グニ減產
ナル上、自動車用炭ハ別ダトカ、イヤ
已ムヲ得スカラ家庭用炭ノ屑ヲ自動車
用炭ニ向ケルノダトカ、ソレモ駄目ダ
カラ農林省ノ都合ノ好イヤウニ、其ノ
都度區別シテ拂下ゲルノダト、マルデ
兒戲ニ等シイ、猶ノ眼程手段ヲ變へ、
全クノ思付キノミデ、是デ薪炭對策ガ
立ツテ居ルノデセウカ、今少シク責任
ヲ持ツテ、智慧ノ小出シヲシナイデ、
信念ノアル對策ヲナゼ御立テニナラナ
イカ、木炭價格ハ餘リニモ色々アツ
テ困ルト云ヘバ、直チニ一本値ニ改惡

シ、又ソレデハイカヌト言ヘバ三等級
ニ復シテ恬然トシテ居ルガ如キ、餘リ
ニモ素人工作デハアリマセヌカ、薪炭ノ
炭課ニハ木炭ノ實情ヲ知ル人ガ
居ラレナインデマウカ、薪炭ノ
益ニ減産サレル根本ガ何レニアルカヲ
御存ジナクテ、唯掛聲ヤ、若干ノ値上
ヤ、機構ヲ少シイヂクツタ位デ増産
ヲ圖ルコトハ、木ニ縁ツテ魚ヲボムル
以上ニ至難ナコトヲ御承知ナイカラデ
セウ、此ノ惡條件ノミノ集積サレタニ
モ拘ハラズ、支那事變以來一時目立ツ
テ減產サレズ、最近ニ至ツテ急激ニ減
產サレマンシタ主ナル原因ハ、若イ動キ
盛リノ製炭者ガ相當應召、應徵サレテ
モ、製炭ハ幸ニシテ、老人モ相當燒
成サレルト云フ點ト、兼業製炭者ガ多
數デアツタ爲デアリマス、殊ニ是等ノ
老人ハ築詰メ、爐焚等ニ對シテ、耐火
力ガ却テ老人ノ方ガ強イコトト、築揚
作業ハ女子モ相當出來タコトニ依
リ、漸ク製炭量ガ持續サレタノデアリ
マス、又是等ノ人々ハ製炭ニ對シテ一
種ノ矜恃ヲ持チ、質ニ於テモ急激ニ時
流ニ染マズ、收入ヲ度外視シテ自己ノ
技術、信念ノ上カラ製炭サレテ居ツタ
ノデアリマス、然ルニ十年ニ近キ事變
ルコトガ出來ナクナリ、年一年ト此ノ
國家的至寶ガ老衰セル爲ト、作業林城
ガ益ニ奥地ヘヘト移動サル、爲
メ、之ニ加ヘテ食糧難カラ製炭ニ專念

件ニ拍車ヲ掛ケテ、減産ニ次グ減產ヲ
來シタ原因ヲ見逃スコトハ出來ナイノ
デアリマス、普通ナレバ十一月下旬カ
ラ十二月ニ掛ケテ山入ヲ致シマス爲
メ、年末ニハ相當出炭サレタモノガ、
本年ハ恐ラク關東地帶以西デハ、二月
ニ入ラナケレバ本格的ナ出炭ガナイ實
情ヲ如何ニ御覽ニナリマスカ、是レ製
炭者ガ食糧難ノ爲メ皆兼農業家トナ
リ、少クトモ幾ラカノ食糧ヲ自己ノ手
ニ依ツテ作ラナケレバ不安デ、製炭ニ
從事スルコトガ出來ナイ爲メ、此ノ現
象ヲ來シテ居ルコトヲ御存ジナイノデ
ハナイデセウカ、是デハ此ノ大震ヲ如
何ニシテ越サシメルカヲ伺ハザルヲ得
ナイノデアリマス、現在ノ手持木炭ヲ
全部放出シテモ、罹災者ト國民ヘ相當
量ノ木炭ヲ配給サレルコトハ出來ナイ
ト考ヘラレマス、況シテ最近石炭饑饉
ノ爲ニ、一時戰前ニ復サレタ鐵道モ五
割減ヲ決行サレルト聞キマス、是ガ爲
ニ又輸送ニ一大隘路ヲ生ジ、自動車輸
送ガヨリ以上ニ問題化スルコトと思ハ
レマスガ、之ニ對シテ薪炭ニ依ル固形
燃料ノ確保ガ出來テ居ルデセウカ、平
素アスラ事缺ク實情ノ時、是ガ對策ニ
關シテハ今後調査研究中デハ間ニ合ハ
ナイ、代用燃料ニ對シテ落着イテ御研
究ニナツテ居ルヤ否ヤ、松根油採取ヨ
ツテモ、之ヲ配合スルコトニ於テ利用

價値ガ立派ニアルコトス、民間業者ニ先行サレタ様ナ試験機關デ、此ノ輸送路ヨリ來ル小運送ヲ如何ニ打開サル、御計畫力、原子爆弾ニ竹槍デアフル方針ノアルコト思ハレマスカラ、國民デ、此ノ際此ノ對策ニ付キ確然タ明瞭ニ御發表ヲ願ヒタイノデアリマス

ノ充員ニ依リ、働き得ル者ハ根コソギ
安ハ同時ニ食糧不足トナリ、是ガ充足
ニ奔走セルコト、又一面食糧不足ニ依
リ、從事者ガ從前ノ如ク活動ナシ能ハ
ザル實情ニ起因スルモノニアツテ、機
構ヤ形式上カラノ出材難デナイコトヲ
能ク御考ヘニナラナイト、如何程機
構ヲ變ヘテモ、却テ此ノ切換ヘノ爲
メ生産ノ遲延ヲ來スノミデアツテ、
十一月二十六日以來、地木社ノ手持品
ノ引渡シダケニ樹リ切リデ、生産集荷
ガ杜絶シテ居ルコトヲ御考ヘヲ願ヒタ
イノアリマス、戰災復舊ニ急ト要ス
ルト云フ點カラ、機構ヲ變ヘテ最早旬
日ヲ空費シタデハアリマセヌカ、是等
ノ點カラ見テ、今後豫期サル、諸點ニ
付テ御伺ヒ致シタイノアリマス
第一ニ、木材統制法ハ殘シテ置イ
テ、木材集荷配給規則ノ第三條ヲ徹廢
サレタ爲メ、地木社ノ機能ハ全ク消失
シタルニモ拘リマセズ、是ガ解散ヲ認
メナイトスルト、折角赤字ヲ出サナイ
デ來タ會社モ、今後ノ開店休業ノ結果
遂ニ赤字ヲ出スコトニナルガ、此ノ際
早ク解散サセテ真ノ自治統制ニ移行セ
シメラレテハ如何、此ノ點ヲ伺ヒタイ
ノデアリマス

ノ状態ニナルコトハ火ヲ堵ルヨリモ明瞭デアリマス、是デハ現在木材集荷配給規則第三條ガアツテスラ、横流防止ニ苦シンド實情デアリマスニモ拘ラズ、是ガナクナリ、之ヲ地方長官ノ自由裁量ニ委セテハ、ヨリ以上ノ闇、横流レヲ、何ニ依ツテ防止スルカ、現在ノ横流レヤ闇取引ガ山元生産地デ、最寄ノ民需者ガ勝手ニ、手車一輛分位ノ取引ガ比較的目立タズ、手頃デ、如何程高クテモ喜ンデ買取ル爲ニ、是ガ一番樂ニ取引サレ、集散地ニ來ルマデニナクナツテシマフ、實情ヲ御承知ナリヤ否ヤ、又同規則第三條ノ撤廢後、地方長官ノ方策ニ依ル何等カノ形式ヲ以テスルコトハ、現ニ杉皮ノ制度ト同ジデ、杉皮取引ガ公定取引ヤ、割當出荷ハ皆無ニモ等シイコトヲ御承知ニナツテ居ラレマスカ、此ノ缺點ヲ御承知デ又ゾロ縁返ヘサル、コトハ、是ハ今後ノ出荷ニ非常ニ心配セラレルノデアリマス、此ノ點ハ山元ニハ伐倒サレテ最早腐敗ニ近クナツテ居ツテモ出テ來ナイ理由ヲ能ク御承知ニナツテ、其ノ上デ御考ヘニナラナイト大イナル間違ヒガ起ルト存ジマス、又官霑材、縣外移出材ノ日本社ノ一手取扱ハ、却テ仕事ヲ遅延セシメ、精算上種々ノ誤謬ヲ生ジ、爲ニ其ノ取引ノ積極性ヲ阻止シタル具體的事實ヲ御承知ノ上デ斯ク改メバ豫期ニ反シタ結果ニナリマシテ、思

ハザル減少ヲ來スコトヲ心配スル者アリマス、此ノ點如何デアルカ御尋ネ致シタイ
其ノ次ニ地木社ガ持ツ共助金支出ノ爲メノ借入金ニ對シテハ、今後地木社ノ機能廢止ニ依リ豫期ノ收入ニ大異變ヲ生ジマシテ、是ガ決済ノ道ガ杜絕スルコトニナルガ、此ノ補填ノ途ヲ如何ニ御考ヘニナツテ居ルカ承ツテ置キタ
イ
最後ニ本月四日附デ木材規格ノ改正ト値上ガガ行ハレマシタガ、如何ニ規格ノ改正ヲサレテモ、建築規格ヲ御定メニナラナイデハ、此ノ枯渴ニ近イ森林資源ニ對シ、無駄ガ非常ニ多イト思フノデアリマスガ、何故建築規格ノ制定ヲ御急ギニナラナイノカ、元來日本
人位趣味ノ多イ國民性ハアリマセヌ、他國ニナク設計者毎ニ方式ヤ好ミヲ變ヘ、戰災應急ノ假建築スラ、各都道府縣趣キヲ異ニシテ居ルデハアリマセヌカ、是デハ罹災家屋ノ復舊ニモ、假建築ニモ、生産者方面ニ豫メ備蓄スル製材ガ不可能デ、注文ヲ受ケテ製材スルト云フコトデハ不便此ノ上モナク、又遲レテ急ノ間ニ合ハナイコトニナル、此ノ點無駄ヲ省ク上カラ、急速出荷ヲ圖ル上カラ、至急制定スル御考ヘナキヤ、此ノ點ヲ承リタイノデアリマス、以上ヲ以チマンシテ私ノ御尋ネト致シマス
(拍手)

其ノ方ニ出席サレテ居リマスカラ、馬岡君ニ對スル總理大臣ノ答辯ハ之ヲ留保致シテ置キマス——紅露農林政務次官
〔政府委員紅露昭君登壇〕
○政府委員(紅露昭君) 各方面ニ亘ツテ御質疑ガアリマシタガ、極メテ簡単ニ要領ダケヲ御答ヘ致シタイト思ヒマス、先づ第一ニ、本法案ガ前議會ニ於テ通過後ニ活用サレナカツタノハドウ云フ理由デアルカト云フ御尋ネデアリマスルガ、馬岡君御承知ノ如ク、前議會ニ衆議院議員提出法案トシテ議會ヲ通過致シマシタノハ四月デゴザイマス、其ノ後施行規則、施行細則ノ制定、其ノ他ノ手續中ニ、御承知ノ如ク帝都ガ大空襲ニ遭ヒマシテ、爲ニ是等ノ規定ノ制定ガ遅レテ居リマシテ色々ヤウナ譯デ、今日ニ至ツタ次第デアルノデゴザイマス
更ニ第二點トシテ造林費ノ三百五十五圓ハ安クナイカト云フヤウナ御質疑アツタト思フノデアリマス、是ハ詳細ハ委員會ニ讓リマスルガ、政府ト致シマシテハ、御承知ノ如ク土地ニ依リ、或ハ又業種ニ依リマシテ、種々ノ方面カラ之ヲ検討致シテ決定致シマシタノerde、此ノ金額ニ依リマシテ、農林省ト斯モノト、所謂實施上支障ナキモノト斯様ニ相考ヘテ居ルノデゴザイマス

次ニ失業者ガ現今街ニ溢レテ居ル、此ノ失業者ヲ造林方面ニ廻シテハドウカト云フヤウナ御尋ネデアツタト思ベク労力ヲ廻ハシタイト思フノデアリマスガ、御承知ノ如ク作業場ガ山岡ミアリ、奥地デアルト云フ關係上、中々此ノ都市カラ造林方面ニ労力ヲ廻スト云フコトハ困難ナ事情ガゴザイマスルノデ、成ベク其ノ地方ノ在住者ニ重疊ヲ置イテ行キタイ、斯様ニ考ヘテ居リマス

更ニ薪炭行政ニ付テ云フ御質問申、戦災者ニ薪炭ノ配給ガ圓滑ニ行シテ居ナイデハナイカ、政府ハ之ニ對シテ何等カノ對策ヲ持ツテ居ルノカトニフヤウナ御質疑デアリマシタガ、是ニ洩ニ遺憾ナガラ輸送ノ關係、又生産ノ關係上、昨年度ニ比シマシテ本年ハ儘カニ五、六割——無論薪炭ニ換算シテアリマスガ、其ノ程度シカ配給ガ出来テ居リマセス、具體的ニ申シマヌケラバ、今年一戸僅カニ二俵シカ配給ガ出來テ居リマセヌ、寒ニ向ヒマンタノデ、今年中ニ各戸ニ一俵ゾツ配給ヲ致シタイト思ヒマシテ、折角今努力致シテ居ル次第デゴザイマス、而モシコ送ノ窮屈ナコトハ馬岡君御承知ノ通りマスガ、關係省トモ協議致シテ、戰災者ニ優先的ニ配給ヲシコ

規格ヲ置カナカツタコトハイケナイン
アリマスガ、是モ亦洵ニ御尤モナ御質
疑デアリマシテ、政府ト致シマシテハ、
御承知ノ通り戦時中非常ニ労力ノ不足
ニ依リマシテ、已ムナクア、云フヤウ
ナ規格ヲ定メタノデアリマスルガ、最
近質ヲ加味シマシテ規格ヲ定メルト云
フコトニ致シタイト思ツテ居リマス、
最近又種類ニ依リマシテ、櫻或ハ椎、松
其ノ他總テ之ヲヤルコトニ致シテ居リ
マスルカラ、此ノ點ハ御質疑ノ趣旨ニ
副ヒ得ル、斯様ニ考ヘテ居リマス
ソレカラ石炭ガ非常ニ窮屈ニナツテ
來タカラ、之ニ對スル代替燃料ヲ考ヘ
テ居ルカ、斯ウ云フヤウナ御質疑デア
リマシタガ、是ハ御承知ノ如ク木炭ノ
生産ソレ自體ガ、既ニ今申上ゲマシタ
ヤウナ窮屈ナ狀態デゴザイマスルノ
デ、石炭ノ飢餓ニ對シテ木炭ヲ以テ之
ニ代ヘルト云フヤウナ考ヘハ今持ツテ
居リマセス、併シ食糧ノ輸送其ノ他、
今後非常事態ニ對處致シマシテ相當ノ
考慮ヲ致シタイ、斯様ニ考ヘテ居リマ
ス

知ノ如ク臨時應急、處置デゴザイマス
方長官ト協議致シマシテ適當ニ處理ヲ
致シタイト思ツテ居リマス、又縣外移
出ニ付キマシテモ考慮致シテ居リマ
ス、隨テ今御質疑ノ如ク、直グ之ヲ解
散セシメテハドウカト云フ御話デアリ
マシタガ、是ハ各方面ノ意見モ聽キ、
又長官トモ協議致シマシテ適當ニ處理
致シタイ、斯様ニ考ヘテ居リマス、更
ニ將來ノ木材統制ニ付テドウ云フ方針
デ進ムノカト云フ御尋ネデゴザイマシ
タガ、是亦今中上ダマシタヤウニ、今
同ノ措置ハ臨時應急ノ措置デゴザイマ
スルノデ、是ノ結果ヲ見、又各方面ノ
御意見モ伺ヒマシタ上テ、適時適當ナ
處理ヲ致シテ參リタイ、斯様ニ考ヘテ
居リマス

二 御異議アリマセヌカ
〔「異議ナシ」と呼ブ者アリ〕

入營、應召者ニ付テノミ職業ノ保障ヲ
ナスコトハ、只今諸般ノ情勢ニ鑑ミ適
當テナイト考へラル、ニ至リマンタノ
デ、之ヲ廢止セントスルモノニアリマ
ス

尙ホ國民労務手帳法ハ從業者ノ雇入
及ビ使用ニ關シ國民労務手帳ノ所持ヲ
條件トシ、從業者ノ引抜キ並ニ移動ヲ
防ギ、併セテ賃金ノ騰貴ヲ抑制スル目
的ヲ以テ、昭和十六年三月制定公布ヲ
見タノデアリマスガ、終戦後ノ今日ニ
於テハ、既ニ斯カル労務統制ノ必要ヲ
認メラレナクナリマシタノデ、之ヲ廢
止セントスルモノデアリマス、何卒速
カニ御審議ノ上御協賀アランコトヲ希
望致シマス

○副議長(勝田永吉君) 本案ノ審査ヲ
付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御詰り致
シマス

○長野高一君 本案ハ議長指名二十七
名ノ委員ニ付託セラレントコトヲ希望ミマ
ス

○副議長(勝田永吉君) 長野君ノ動議
ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○副議長(勝田永吉君) 御異議ナシト
認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシ
タ——日程第三、昭和十二年法律第七
十八號廢止法律案ノ第一讀會ヲ開キマ
ス——小笠原商工大臣

念日本萬國博覽會抽籤券附回數
入場券發行ニ關スル法律廢止ノ
件(政府提出、貴族院送) 第一讀會
昭和十二年法律第七十八號廢止法律案
昭和十二年法律第七十八號ハ之ヲ廢
止ス

方針アリマス、何卒御審議ノ上速カ
ニ御協賛アランコトヲ希望致シマス
○副議長(勝田永吉君) 本案ノ審査ヲ
付託すべき委員ノ選舉ニ付テ御詔り致
シマス

○長野高一君 本案ハ政府提出入營者
職業保障法及國民勞務手帳法廢止法律案
ノ委員ニ併セ付託セラレントヲ望
ミマス

○副議長(勝田永吉君) 長野君ノ動議
ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○副議長(勝田永吉君) 御異議ナシト
認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシ
タ――日程第四、映畫法廢止法律案ノ
第一讀會ヲ開キマス――川崎内務政務次官
次官

第四 映畫法廢止法律案(政府提
出、貴族院送付) 第一讀會

映畫法廢止法律案

映畫法ハ之ヲ廢止ス

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔政府委員川崎末五郎君登壇〕

○政府委員(川崎末五郎君) 只今上程
セラレマシタ映畫法廢止法律案ノ提案
ノ趣旨ヲ説明致シマス、本法ハ昭和十四
年四月五日法律第六十六號ヲ以テ公
布セラレマシテ、同年ノ十月一日カラ本
我ガ國ニ於キマスル最初ノ文化立法ト
シテ是ガ施行ヲ見ルニ至ツタノデゴザ
イマス、其ノ目的ハ國民文化ノ進展ニ

スル映畫事業ニ對シマシテハ、本法ニ
依リ指導並ニ取締ヲ行ツテ參ソタノデ
ゴザイマスルガ、今般聯合國最高司令
官カラ帝國政府ニ對シ、映畫業ニ對ス
ル日本政府ノ取締法令ノ撤廢ニ關スル
件ノ指令ガゴザイマシタ、此ノ指令ニ
依リマシテ映畫法並ニ關係法令ノ廢止
ノ要求ガアリマシタノデ、本法廢止ノ
法律案ヲ茲ニ提出スルノ已ムナキ次第
ニ相成ツタノデゴザイマス、尙ホ以後ノ
映畫其ノ他興行ニ關シマスル保安並ニ
衛生等ノ取締付キマシテハ、且下新シ
イ立場カラ關係官廳ニ於キマシテ銳意
立案ヲ急イデ居リマスルカラ、是ガ實施
ヲ期待シテ居ル次第ゴザイマス、何卒
御審議ノ上速カニ御賛賀アランコトヲ
希望シテ已マナイ次第ゴザイマス
○副議長(勝田永吉君) 本案ノ審査ヲ
付託スペキ委員ノ選舉ニ付テ御詔り致
シマス

○長野高一君 議事日程追加ノ緊急動議
吉君外五十五名提出、刑事訴訟法中改
正法律案ヲ議題トシ、其ノ審議ヲ進メ
ラレンコトヲ望ミマス

ニ御異議アリマセヌカ

「異議ナシ」ト呼ブ者アリ

○副議長(勝田永吉君) 御異議ナシト
認メマス、仍テ日程ハ追加セラレマシ
タ、刑事訴訟法中改正法律案ノ第一讀
會ヲ開キマス、提出者ノ趣旨説明ヲ許
シマス——提出者一松定吉君

——

刑事訴訟法中改正法律案(一松定
吉君外五十五名提出) 第一讀會

刑事訴訟法中改正法律案

刑事訴訟法中ノ通改正ス

第二百七十八條ニ左ノ二項ヲ加フ

刑法第百九十三條乃至第百九十六
條ノ罪ニ付テハ辯護士會モ亦公訴
ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ
辯護士會ハ檢事ト同一權限ヲ有ス
辯護士會カ前項ノ權限ヲ行フニハ
辯護士會ノ決議ニ依リ辯護士會長
又ハ其ノ指走シタル辯護士ヲシテ
辯護士會ヲ代表セシム

第二百八十條ニ左ノ一項ヲ加フ

〔一松定吉君登壇〕

辯護士會カ公訴ヲ行フ場合ニ於テ
ハ同會カ指定シタル者ニ付亦同シ

刑事訴訟法中改正法律案（一）松定

吉君外五十五名提出) 第一讀會
刑事訴訟法中改正法律案

刑事訴訟法中左ノ通改正ス

刑法第百九十三條乃至第百九十九條ノ罪ニ付テハ辯護士會モ亦公

ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テ
辯護士會ハ檢事ト同一ノ權限ヲ有

辯護士會カ前項ノ權限ヲ行フニ
辯護士會ノ決議ニ依リ辯護士會員

又ハ其ノ指走シタル辯護士ヲシニ
辯護士會ヲ代表セシム

第二百八十條ニ左ノ一項ヲ加フ
辯護士會カ公訴ヲ行フ場合ニ於ニ

ハ同會力指定シタル者ニ付亦同

○—松定吉君 只今上程サレマシタ
事訴訟法中改正法律案ハ、官公吏ノ職

十八條ニハ公訴權ハ檢事之ヲ行フトゴザイマス、其ノ法文ノ次ニ刑法第百九十三條乃至百九十六條ノ犯罪ニ付テハト云フヤウニ改正ヲ致シタイト思フノト云ハシマス、其ノ刑法ノ第百九十三條ハ官公吏ガ職權ヲ濫用シ、人ヲシテ義務ナキコトヲ行ハシメ、若シクハ行フベキ權利ヲ妨害シタル時ノ制裁ニアリマス、百九十四條ハ判檢事若シクハ警察官ガ人ヲ調べマスルヤウナ時ニ、職權ヲ濫用致シマシテ逮捕監禁ヲシタ時ニ對スル制裁ニアリマシテ、百九十四條ハ判檢事司法警察官ガ其ノ職務ヲ執行スルニ當リマシテ、被告人若シクハ其ノ他ノ者ニ對シテ暴行凌虐ヲ加ヘルコトニ對スル制裁ニアリマス、百九十五條ハ等ノ職務ヲ行ワタ結果、此ノ被告人若シクハ被疑者ヲ護送ヲ致シマス、斯ウ云フヤウナ人ガ其ノ職務執行中ニ暴行脅迫ヲ加ヘルト云フヤウナコトニ對スル制裁ニアリマス、ソレカラ百九十六條ハ斯クノ如キ暴行ヲヤリマシテ、ソレガ爲ニ傷害ヲ加ヘタト云フシテ處斷スルト云フ制裁ニアリマス、斯クノ如キ所謂職權濫用若シクハ人權ノ蹂躪ト云フモノハ、モウ餘程以前カツテ處斷スルト云フ制裁ニアリマス、一向是ダ良免改シマセヌ、口可ニ司法

大臣ヤ内務大臣ガ、地方長官ヤ警察官等ニ持ツテ居ル所以デアリマス、故ニハ、所謂公訴權ヲ云フモノヲ檢事ガ専ニ、上司ガ此ノ檢事ニ對シテ之ヲ取調ベ若シクハ起訴シナ、部下ノ司法警察官ガ人權蹂躪ヲ致シマシタヤウナ時マシテモ、警察官ノ此ノ行爲ニ對シテ檢事ガ之ヲ顧ミナイ、ソレニ付キマシテハ色々理由ガゴザイマスガ、兎ニ角正當ノ理由デハアリマセヌ、サウ云フヤウナコトデアルト、百年河清ヲ俟ツテモ之ヲ是正スルコトガ出來ナインデアリマス、ソコデ此ノ公訴權ヲ此ノ種犯罪ニ限ツテ、何等カノ方法ニ依ツテ行フコトガ出來ル者ヲ他ニ求メナケレバナラヌト云フコトデ、色々苦心研究致シマシタ結果、結局彼疑者ニ其ノ公訴權ヲ與ヘルコトガ宜イデハナイカト云フ議論モアル、現ニ外國デハサウ云フコトガ行ハレコト居ルノデアリマスケレドモ、我ガ國情ニ照シマシテ、被疑者が進ンデ檢事若シクハ警察官ヲ告發シ、若シクハ告訴シテ其ノ罪ヲ亂説スル、若シクハ公訴權ヲ行フト云フコトハ中々出來マセヌ、ソコデ法律ノ公正ニ執行セラレルコトノ監視役デアル所云フコトニナレバ、決シテ無理ナ公訴權ヲ行フト云フコトハナ、正シキ公訴權ヲ行ヒ、而モ十分ナル證據ニ基カノ辯護士會ヲシテ、之ヲ行ハシメルト

ニ向ツテ公訴ヲ提起スルト云フコトヲ
致サヌコトハ火ヲ賭ルヨリ明カデアリ
マスルガ故ニ、此ノ意味ニ於テ此ノ種
犯罪ニ限ツテ、辯護士會ニ公訴權ヲ附
與スル、辯護士會ハ即チ辯讀士總會ノ
決議ニ依ツテ此ノ公訴權ヲ行フ、辯護
士會長ヲシテ之ヲ代表セシムル、辯護
士會長ガ差支ヘノアリマスル時ニハ、
辯護士會長ノ指定シ辯護士ヲシテ、
其ノ公訴ノ實行ニ當ラシムルコトガ出
來ル、斯ウ云ウヤウニ致シマスレバ、
此ノ法律ガ通過シ、此ノ法律ガ現存シ
テ居ルト云フ事ノ一事ニ依ツテ、今申
上ゲマスル人權蹂躪ト云フモノガ立て
コロニ根絶スルコトハ、火ヲ賭ルヨリ
モ明カデアルト私ハ確信ヲ致シマス
(拍手)此ノ意味ニ於テ此ノ法案ヲ提案
ヲ致シタノデゴザイマスルガ、只今本
日ノ選擴法改正委員會ニモ問題ニナツ
テ居リマスル選舉干涉ナンカト云フコ
トニ付テ、御承知ノ選舉法ノ第百十六
條ニハ、職權ヲ濫用シテ選舉ノ公正ナ
ル施行ヲ妨害スルヤウナ者ニ對シマシ
テ制裁規定ガアリマス、併シ是ガ餘リ
今マデ行ハレテ居リマセヌ、斯ウ云フ
ヤウナコトモ此ノ法律ガ通過スルコト
ニ依リマシテ、公務員ガ其ノ職權ヲ濫
用シテ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシ
メ、若シクハ行フベキ權利ヲ妨害シタ
時ニハ、此ノ法律ニ依ツテ辯護士會ガ
活動ガ出來ルト云フコトデアリマスノ
デ、行政官廳ガ自己ノ部下ノ知事ヤ、

警察部長ノ非違ヲ蔽ハントシテモ蔽フ
コトガ出来ナイト云フコトニナリマ
スカラ、隨テ選舉干涉ト云フコトモ根
絶スルコトニナルノデアリマス、此ノ
外色々ナ事情ガゴザイマスルガ、ソレ
等ノコトハ何レ委員會ニ於テ詳細御説
明申上ゲルコトニ致シマシテ、此處デ
ハ此ノ程度ニ止メテ置キマス、何卒御
賛成アランコトヲ御願ヒ致シマス（拍
手）

○長野高一君 本案ハ議長指名十八名
ノ委員ニ付託セラレシコトヲ望ミマス
○副議長（勝田永吉君） 長野君ノ動議
ニ御異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」と呼ブ者アリ〕

○副議長（勝田永吉君） 御異議ナシト
認メマス、仍テ動議如ク決シマシ
タ、是ニテ議事日程ハ議了致シマシ
タ、次會ノ議事日程ハ公報ヲ以テ通知
致シマス、本日ハ是ニテ散會致シマス
午後五時十三分散會

